

## 「養育家庭(ほっとファミリー)体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供が約4,000人います。

都では、このような子供たちが、実の親に代わり、家庭的な環境の下で生活できるように、養子縁組を目的としない「里親」(養育家庭)の普及啓発に努めています。

そして、多くの方に里親の制度を理解していただくとともに里親になっていただけるようにと、各区市町村と協力し、養育家庭体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成28年度に開催された体験発表会において、養育家庭の皆さんに発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

里親になろうと思ったきっかけ、元里子の委託されていた時の思い、交流中の思いがけない出来事や慌ただしい日々の様子などが描かれています。

また、委託後の子供の赤ちゃん返りなどの問題や実子と里子の関係、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういった御苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、養育家庭をやっていて良かったという話や、悩んだ時に里親仲間や児童相談所の職員など周りの人から支えもらった話など、里親(養育家庭)だからこそ味わえる子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成29年9月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

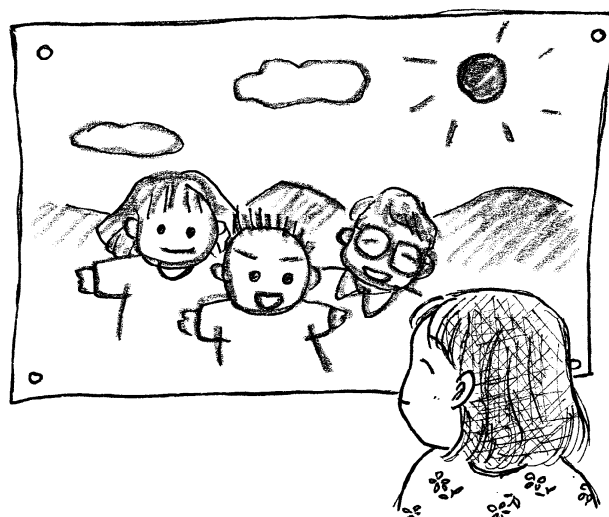
竹 中 雪 与

## 目 次

1	里子は“普通”のこと	2
2	元里子として今思うこと	4
3	里親夫婦と出会ったおかげで掴んだ 人生の中の一番の幸せの切符	6
4	子供と暮らすことと自立を支援することの挑戦	8
5	いくつものステップを乗り越えて	10
6	福のある子を育てる	12
7	家族は血じゃない	14
8	短期のお預かりから見えてくるもの	16
9	夢と希望をもって飛び立てるように	18
10	大変だったこともどんどん忘れてしまう！ 子供たちとの毎日	20
11	二人の娘をむかえて	22
12	子供を預かって得た充実感	24
13	短期委託の里親を経験して	26
14	僕が思う里親と里子の関係について	28
15	一番ほっとできる居場所	30
16	私の家族	32
17	何気ない幸せ	34
18	新米里親奮闘中	36

## 養育家庭(ほっとファミリー)

### 体験発表会に、ようこそ!!



この体験発表集には、18組のほっとファミリーの方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

## 1 里子は“普通”のこと

【元里子】

元里親のNさんに引き取られたのは2歳の頃です。よく覚えていませんが、それまでは乳児院で暮らしていました。小学校5年生からトランペットを始めて、中高生時代は吹奏楽部でコンクールの金賞を目指して、同級生と一緒に夜遅くまで練習したり、本番前は顧問の先生に頭を下げて、朝練習のお願いをしたりして、すごくトランペットに夢中になっていました。地元の友達とは小学校からの付き合いなので、今でも週に何度かのペースで会っています。

自分が里子だということに気づいたのは小学生の頃でした。それまでは、僕は神様から生まれたと親に言われていて、本気でそれを信じていました。母子手帳に僕を産んだ親の名前が書いてあるのを見て、「あれ？これ誰？」と聞いたら、「そういえば里子なんだよ。」と言われたような気がします。でもその時は、小学生だったからか、特に何の感情もなかったです。里親になる方がいたら、伝えるのは早いうちの方がいいかもしれないと思います。

Nさんには数え切れないほど迷惑をかけて、喧嘩もしました。今考えると、里子だから甘やかすとか、気を遣うとかではなく、よいことをすれば褒められて、よくないことをすれば叱るという、親として当たり前のような教育を受けてきたように思います。

現在、特別支援学校の教員を目指して福祉系の大学に通っています。僕が小さい頃から養育家庭という福祉の恩恵を受けていたからこそ、福祉で自分も働きたいなと思いました。大学ではブラスバンドサークルに入って、今でもトランペットを吹いています。他にも生協組織部という大学の活性化を目指して活動するサークルにも所属し、とても充実した大学生活を送っています。このような生活を送れるのも、元里親のNさんのおかげであって、とても感謝しています。

親子の関係に血のつながりは関係ないと僕は思います。それは、里親との18年間で証明できて、里子であることは気にするようなことではないと…。生まれつき身長が低かったり、運動ができなかったり、勉強ができなかったり、里子であるということもそういう一種だと思うのです。里子というのは一つの特徴なので、僕は何かを言われたとしても、チビと言われているのと同じような感覚で捉えていたので、全然辛くなかったです。何を言われても気にせず堂々としていれば、周りも自然と理解してくれます。そうやって僕は18年間生きてきました。名字についても、僕の里母は、「せっかく親からももらった名字だから変えなくていいじゃん。」と言って変えなかったんです。それは嬉しいことですが、自転車の防犯登録の時や、バイト先で保護者氏名のところにNと書いてあると、「何で違うの？」と聞かれ説明すると、「そうなんだ…」と少し引かれちゃうので、自分から「僕、里子なんです。」と普通に言っていました。仲よくなった子こそ僕はすぐ言っちゃいます。里子なんだと言うと、「えっ、そうなの？」とその時は驚かれますが、里子であることを気にせず堂々としていっていると、数日後には自然な感じ

になるのです。逆に僕が里子であることをすごく気にしていて、それに触れないで…みたいな感じだと、周りも気を遣ったり、陰で噂されたりすると思うのです。僕は里子であることは誇らしいことだと思うのです。また、里親は、実の子じゃないのに育てようと決心しているわけで、里親になるというその勇気がすごいことだと思うのです。里子であることは別に恥ずかしいことではなく、むしろ誇らしいと思うのです。誇らしい親がいるから、別に何も恥じることはないと思います。

今まで、高校受験や大学受験の面接の時、里子ということを伝えてきました。里子と言うと、面接官ともそこから話が広がるのです。里子について聞かれたら幾らでも答えられるので、面接で全くつかかかることなく話すことができました。そのおかげかどうかは分かりませんが、僕は里子だったからこそ高校や大学に入れたのだなと思っています。

里子の中に、僕のように自分の親を誇らしいと思う子がどれくらいいるか分かりませんが、僕がそう思ったのは、満年齢解除を迎えて里子としての生活が終わってからです。里子の期間が過ぎてから、しばらく考えていたら、「里親になった親ってすごいじゃん！」って思ったのです。普通の子の親がすごくないとかそういうのではなく、18年間自分を育ててくれたことがまずすごいと思うのです。僕が思うのは、普通の子も自分の親を誇らしいと思うのが普通で、里子の親はもっとすごいと思うのです。自分の産んだ子じゃないのに18年間も育てたわけですから、本当にすごいと思うのです。ここにいる方がもし里親になったりすることがあったら、辛いことは普通の家庭より絶対多いと思いますが、その分やりがいもあり、自分が言うのも変ですが、本当に里親はいいと思います。

僕は20歳になった時にひとり暮らしを始めようかなと思っています。それでもNさんとの関係は断ち切らないです。Nさんも、義務はないですが20歳になっても援助してくれると言っているので、そこを頼りに自分も自立して、これからもNさんへの感謝の気持ちを忘れないで頑張っていきたいなと思っています。

僕が一番伝えなかったことは、「里子も普通の子と同じ」ということです。里子は普通の子なので、普通の子と同じように育てて、普通の子と同じような環境で色々な人と関わらせてあげてほしいのです。ここに、もし里親になる方がいたり、周りに里親子がいたりしたら、“普通”に接していただけたら嬉しいです。



## 2 元里子として今思うこと

### 【元里子】

2歳の終わり、3歳になる直前に乳児院から里親の家に里子として引き取られてきました。里子の期間が切れる18歳を過ぎた後も私は里親宅から専門学校に通い、21歳のときに里親さんの養子となり、現在は結婚して2児の母として子育てに奮闘中です。

私を引き取って育ててくれた里親さんは実子がいなくて、既に3人の子供を養子として育てていました。私は初めての里子として、また4人目の子供としての生活がスタートしました。私は記憶にないのですが、乳児院と家庭では違いが多くて、里親は戸惑うことがとても多かったそうです。当時は男性職員さんの少ない乳児院なので男の人に慣れていなくて里父を見るたびに大泣きし、里母はトイレにも行けない日々が続いたそうです。里父の対策は、毎日のように私に甘いお菓子を買ってくることでした。そんな里父との出会いでしたが、今では里母よりも里父が大好きというくらい好きになりました。

自分が里子に来てよかったなと思うことは、父親、母親と呼べる人と一緒に生活ができたこと。また、兄弟もみんな養子で、みんな血がつながっていなかったのも、それもとてもよかったかなと思っています。

私が当時里子として、すごく苦労したことは名前の問題と周囲への説明の仕方でした。私は物心がつく前から真実告知をされていたので、自分が里親とは違う名前なのはわかっていたのですが、学校や表向きは里親の名字で通していました。しかし、病院では本名で通院しなければならなかったのも、病院に行きたくありませんでした。本名を名乗るのが嫌だったのではなく、当時ははがきサイズぐらいの大きい保険証で、普通の人と違う保険証だったのがとても嫌でした。里子の説明もしなければなりません。私が高校生ときに特にこの悩みにぶつかりました。一人で病院に行ってもうまく説明できないので一人では行けず、とても恥ずかしいと思いました。

18歳になり里子を終了した私は、そのまま里親宅にいて専門学校に行ったのですが、とても苦労がありました。それは奨学金の手続をするとき保証人が必要だった事です。私は里親を本当の親だと思っていたので、当たり前のように里親を保証人に立てました。でも里親は名字が違うし、里親でもなくなっているのも書類が通らず、学校に事情を説明してほかの人とは別の紙を多く書かされて、ようやく奨学金を認めてもらいました。2年前ぐらい前に里子を終了した子がいたのですが、その子も専門学校に行くことで、奨学金の手続をしましたがやはり元里親でも保証人になることは無理でした。それでお金を払って保証人になってくれる会社を利用することで奨学金を借りることができました。二十歳を過ぎれば自分の責任で動けることも多いのですが、里子を終了してからの2年間は大変さがとてもあるので、里子の置かれた状況を理解してほしいと思います。

私は現在、里親さんのファミリーホームの補助者として里子たちと触れ合っています。その里子たちは私と違って、多少大きくなってから家庭に来ているので、施設の生活を体験しています。今の里親家庭に来てよかったことを聞いてみました。

・出かけたり、旅行に行くことがふえたので楽しい。・少人数なので動きやすい。・自分のために叱ってくれる存在がうれしい。・朝からテレビを見せてもらえるのがいい。・施設によっては、土日のみしかパンが出ないメニューがあるらしくて、毎日パンが食べられるようになったのがうれしい。・父や母と呼べる存在ができてうれしい。・授業参観など、里親さんと本当に自分だけを見に来てくれるので、それがとてもうれしい。などと言っていました。

私が今の里子たちを見ていて、この里親家庭に来て絶対よかったなと思うことは、私の里親は毎年、夏冬は必ず家族で旅行を計画します。家族全員強制参加ですが、それが里子たちにとってはとってもよいことだと感じています。

また、数年前に18歳で家を出た里子がいるのですが、中2で来た当時はものすごく荒れていて、里親も何度もギブアップしそうになるほど大変な子でした。でも、今は結婚して2児の母親をしています。家に行くと掃除はしているし「御飯は同じメニューはつくったことがない」と言い、子供を触ろうとすると「ちゃんと手を洗ったのか」と言われて、除菌のウェットティッシュを差し出されたりします。人間が180度変わりました。私が思うには、里親の家庭で生活できたからこそ、今、自分が逆の立場になり、自分のすべきこと、相手の苦勞がわかってきたのかなと。この子も里子になって本当によかったなと感じます。自分の子供ができてからは世話が大変なので、たまに甘えに帰ってくるのですが、里子になったからこそ頼れる場所もできました。

またもう一人、去年家を出た里子もいろいろ手をやいて大変な子でした。家を出る前は「俺は絶対に帰ってこないから、一人で生きてやるから」と言って、寮のあるところに就職していきましたが、自分で生活してみているいろいろ苦勞やありがたみがわかったようで、今は月に2回は里親のところに顔を出し、里子たちの面倒を見たり、働いたお金でおごってくれたりします。初任給が出たときには、里親に感謝の意味を込めてお財布をプレゼントしていました。こういう元里子たちを見ていると、やはり里親の存在、里親家庭は子供にとってすごく必要だなと感じます。また、私も里子だったので、いろいろ相談に乗ってあげることができるのでよかったかなと思います。

最後に、私が今の里親さんでよかったと思うことは、自由にさせてもらったことでした。門限などの決まりはありましたが、里親は仕事に趣味に多忙だったので、私に執着していなくてとてもよかったです。里子を預かる里親さんは一生懸命その子を育てないと、とってしまうみたいなので、これから里親になろうと思っている方はぜひ趣味を大事にしながら子育てをしてほしいと私は思います。これは里子でも実子でも関係ないと思います。現に私も、里母や里姉に子供の面倒を任せて気分転換をしに遊びに行きます。子育ては大変だと思わないし、楽しいです。

里子でも実子でも、やはり周りの人の助けは必ず必要だと思いますので、もっと里親、ほっとファミリーが広まってくれることを願います。

### 3 里親夫婦と出会ったおかげで掴んだ 人生の中の一番の幸せの切符

【元里子】

今から自分の人生の生い立ちと、自分が初めて養育家庭で学んだことをお話ししたいと思います。

自分の両親は2歳のときに離婚してしまいました。既に物心がついたときは自分の父親の存在を知りませんでした。3歳のとき、渋谷のマンションで母親と2人暮らしをしていたことを覚えています。母親はその頃から育児ができず、私は一時保護所に預けられることになりました。半年たったときに母親が迎えに来て、祖母の家から近いアパートで暮らし始めました。母親は家から出られないため、半年だけしか保育園に通っていませんでした。

祖母が1週間に1度だけ、御飯をつくり置きして帰るという生活がそこから1年始まりました。その1年の中で小学校に入学したことを覚えています。

入学式を終えて1年後、母親と祖母がけんかをしてしまい、育児のできない母親と暮らすことが困難になり、新宿に住んでいた祖父の家に預けられることになりましたが、小学校2年生から3年生の間、学校に行っていなかったため、その当時大切だった掛け算などが全くできなかつたです。

小学校3年生のときに祖父の家から近いアパートを借り、母親との暮らしが始まりました。その中で半年間だけ小学校に行ったことは覚えています。

その後、母親がまた「気分を変えたい」と言い、引っ越すことになりました。当然、母親は子育てがなかなかできないので、またしても住み始めてから2カ月後には小学校にも通わないまま一時保護所に預けられることになりました。おそらくそのときは、小学校3年生の10月から2月の間は一時保護所で生活をしていました。小学校3年生の最後のときに母親が一時保護所に来て、「また新しいところに引っ越す」と言い、自分と2人で引っ越すことになりました。

小学校5年生のときに母親が統合失調症になってしまい、「マンションの下の駐車場に誰かいる」と言い出しました。誰かいるというのは、母親にとってストーカーが見ているということだったようで、当時、小学校5年生の自分は本当にいるのだと信じてしまい、母親の言うことをちゃんと聞いていました。

母親の病状は悪化していく一方でした。中学校2年生の冬には母親とのけんかがひどくなり、母親からフライパンで殴られるなどということもよくありました。中学校2年生の冬には、もう既に自分は母親が統合失調症という病気だということに気づき、周りで見っていた中学校の先生や児童相談所の人などが自分に話しかけ、養育家庭へ行ってみないかという相談を持ちかけられました。自分は新しい人生を見つけないかと思い、養育家庭に行くことを決意しました。母親には養育家庭に行くということを話したのですが、母親は自分がいなくなってしまうと今までの生活ができなくなるということで、断固反



対していました。

ですが、母親の反対を押し切り、真夜中に母親に気づかれないよう荷物をまとめて、朝、児童相談所の人を迎えに来るときに家から出たことを今でも当時の記憶ではっきりと覚えています。このとき、本当に母親のもとから出ていいのかという気持ちと母親から解放されるという喜びもありました。ですが、今までの人生の中から抜け出したいという気持ちが大きく膨れ上がったので、出ることを決意しました。そうして、3月21日に里親宅に行くことになりました。

初めて里父母さんを見たとき、周りの人にないととても温かい笑みで出迎えてくれたことを今でもちゃんと覚えています。

自分は今まで“母の味”というものを知りませんでした。母親は料理を作らず、自分はコンビニ弁当や自分で作ったりしていたので、おふくろの味を知りませんでした。里母の料理はとてもおいしく、何もかもが新鮮で、初めて食べる味でした。とても家庭的な味だったということを感じています。養育家庭が終了した今でも里母の味を思い出して食べたくなるときがあります。

自分にとっては、家に帰れば御飯はなく、洗濯、掃除なども自分でやらなければいけないという生活だったのですが、里親宅は家に帰れば御飯ができていて、洗濯、掃除など全てのことが終わっているということに、本当に自分は幸せだと感じました。他人から見れば当たり前のことなのかもしれませんが、自分にとっては心のどこかが楽になりました。勉強ができなかった自分に、里親さんや児童相談所の人、ケースワーカーの人などが全力で応援、サポートをしてくれたおかげで無事高校に入学することができました。

高校に入ると毎日のように里母さんはお弁当を作ってくれました。そのとき、朝早くから毎日お弁当を作ってくれていることに対して自分は恵まれているのだなという実感が湧きました。

もし里親宅に行かずにほかの人生を選んでいたら、全て何もかも人生が変わっていたと思うので、ぞっとします。

里親さんのおかげで無事高校に進学することができ、今後の人生を真剣に考えていただいたことで、高校を卒業して無事就職が決まり、お付き合いしていた方とも、結婚まで至ることができたのだと自分は思っています。里親さんと出会えたおかげで自分は人生の中で一番の幸せの切符をつかむことができ、人と人とのつながりで自分の人生が大きく変わるということに気づかされました。

## 4 子供と暮らすことと自立を支援することの挑戦

【里母】

私は、数年前に養育家庭の認定を受け、その年の秋に当時高校生の女子、翌年9月に中学生の女子をお預かりし、現在4人で暮らしています。私ども夫婦は20代後半に結婚をし、仕事や自分たちのやりたいことをしているうちに年月が過ぎていたという感じでした。私は会社勤めをしながらアロマセラピーの学校に通い、そしてセラピストの仕事を始め、大変ですが充実した日々を過ごしていました。毎日が自分のしたいことばかりの生活の中で、時折、子供がいたらどんな生活になっただろうと思うこともありました。夫が50歳を迎える年に「こういうのがあるよ、知っている？」と、養育家庭制度を教えてくれて、最初は気乗りしなかったのですが、調べ始めると興味を感じました。良いことではない情報も含めて、知識を得た後、自分の子供ではない子供と生活することに対して、違和感がないことに気づきました。私の仕事は、心身の不調を抱えている人を元気にすることで、共通するところがあると感じましたし、私自身も深く悩み、誰にも言えないことを思春期に経験していたので、困っている子供の役に立てるならば、やってみたいと思うようになりました。そして、児童相談所で相談し、仕事との兼ね合いをつけながら研修へ通い、里親認定に到りました。子育ての経験のない私たちは、就学前後のお子さんを希望し、紹介を待ちました。幾つか紹介がありましたが話が進まなかったもので、何年も待つよりはと思い、何歳でもお受けしますと、申し出ました。

そして、一時保護をしている高校生の女の子Mちゃんを一時保護のまま学校へ通わせてほしいと連絡が来ました。その連絡から数日後、彼女は学校のかばん一つで我が家に来てきました。その日の夕方、着がえや学校のブラウス、布団を買いに走り、ばたばたと準備をしました。Mちゃんは自宅に戻れるだろうということでしたが、結局、我が家にとどまることになりました。事情があって我が家に来たわけですが、初めてうちに来てくれた子供でしたので、うれしくなり、短い期間かもしれないけれども、その間に思い出をつくろうと、最初の3カ月間に都民の森、相模湖、富士五湖めぐり、ディズニーランド、進学希望の彼女に雰囲気を見せようと大学の学祭にも連れていきました。しかし、うちでの生活になれてくると、女子高生ならではの態度と、それまでに培ってきた彼女のキャラクターから出てくる言動に、私は苛立ちを感じるようになりました。さらに、彼女の起床時間が遅いことから毎朝送り出すことが大変になり、夜中までの携帯電話に怒ったり、男の子とのつき合いを心配したりもしました。Mちゃんとしては、高校生活の間に、してこなかった自由な女子高生の経験を一通り全部したように思います。私は時にそれを受けとめ切れず、正直かなりしんどい1年を過ごしました。ですが、3年生になり、看護系の進学を希望する上で、変わってきました。どんなに朝起こしても起きなかったのに、自分で起きるようになり、勉強に取り組む彼女に戻りました。また、社会的養護の子供たちの奨学金申請の準備も始めました。なぜ奨学金を必要とするのか、将来への考えや職業観、熱意を作文で伝え、進学後の4年間の資金計画をしか

り立てなくてはなりません。受験勉強をしながら今までを振り返りをするのは大変でしたが、彼女にとって重要なことでした。作文には、誰にも語ることの無かった本音が書かれていて、今まで生活してきたそれをやっと言えらるようになったのです。措置解除前に気持ちを表現することができて、よかったと思っています。今は彼女が卒業後の進路を自分の力で決定し、私達はそのサポートをすることが一番のことだと思っています。

それからもう一人、高校生の女の子のYちゃんは昨年の夏、やはり一時保護としてお預かりし、そのまま受託しました。中学生の時に転校しましたが、卒業式では泣いていたのです。転校してよかった、友達もみんな親切にしてくれたと、いろいろな気持ちがあふれてきていたのだなと思い、私も卒業式は胸がいっぱいでした。彼女は、引きこもりの的なところがあり、部屋にいて安心するならそっとしておけばいいよ、と主人が言うのですが、リビングにおいてこず打ち解ける感じにはなりません。私が話をしに行くのですが、自分にはできないと思う時とか、気に入らないとその瞬間から、シャッターをおろす態度になり、目も閉じることが何度もありました。何でもいいからやってみないかと、彼女に伝え続けると、何をしたら楽しいのかわからないと言ってくれたので、彼女の気持ちがわかりました。Yちゃんは歌が上手いと思っていたので、ボーカルレッスンに行くことを強く勧め、体験レッスンに行き、今も通っています。歌を続けることで、練習して上手になる喜びや楽しさ、体を動かすことの気持ちよさを実感できるようになることを願っています。まだ高校生で、時間もあるので、少しずつ自立に向けて、自分から外に出ていったり、人とかかわる練習をしてほしいと思っています。

理系の頭で、理屈で考えて行くタイプのMちゃんと、文系タイプで、繊細で相手の気持ちを考えながら、尻込みしてしまうタイプのYちゃん。2人の性格は正反対です。けれども、Mちゃんも当初は自分の考えを言えませんでした。答えに窮すると、即座に「わからない」と言って思考を停止し、食べたいものを聞いても「わからない」と言います。そういったことを思い出すと、Mちゃんは変わりました。お互いに文句を言うようなところもありますが、相手を気遣って助けている関係になっているように見えます。喧嘩もありましたが、2人ともそれぞれに、優しくすてきな心を持った女の子なのだと思っています。

今まで2人に対し、私は怒ったり、ぼやいてばかりしていたように思いますが、2人は確実に変化し成長しています。また、2人が私達を成長させてくれているとも感じます。お説教をしたくなったり、逆に知らないことを教えてもらったりと、私たちのこれまでの人生にはなかった会話によって、夫婦2人の生活に新しい色が加わったように感じます。苦労や悩みも多くありますが、今は里親になってよかったなと思っています。私たち夫婦の今後10年のビジョンは、里親としてお子さんたちを預かり、もし、高校卒業後もサポートが必要な子であれば、私たちがこれからやろうとしているシェアハウスで暮らす間に、自立支援ができたらいいなと思っています。私たちがやろうとしていることに興味を持たれた方がいらっしゃれば、お力もお借りしたいと思っています。

## 5 いくつかのステップを乗り越えて

【里父母】

うちに来て6年目になる女の子が、小学3年生になりました。お母さんが病気で、乳児院に1歳7カ月位で預けられ、お話がきたときは2歳7カ月でした。（里母）

登録をして1年ぐらいしてから、こういう女の子がいるんだけど、どうでしょうかということで、写真を見せてもらい、担当者と一緒に会いに行きました。（里父）

今でも思い出すのですが、小さなお部屋にその子と先生がいて、2人で行って行っても、全然こっちを見てくれず、とつてもかたい表情でした。やっとこっちを見ても、すごい顔で睨まれて、これは難しいんじゃないかなと思いましたが、もう始まったのだからやってみよう、きっと大丈夫だと言いつ聞かせました。乳児院の先生方からも「どんなに泣いてもそばにいてください」「抱っこしてください」と言われ、笑顔がとつてもかわいい子だったので、何とかうちに来てくれないかなという思いつはずとありました。子育て経験がないので、扱いつにも慣れていなかったせいもあつたのかもかもしれませんが、仕事をやめ毎日通うことにしました。お風呂にも一緒に入りました。一緒にいることが大事なんだ、乳児院は食事もおいしいし、先生方も優しいけれど、うちに来るほうがいいに違いない、絶対に来て欲しいと覚悟が決まりました。（里母）

7歳の犬を飼つていて、交流中に乳児院の近くの公園に連れて行きました。最初は怖くて背中しか撫でることができなかつたけれど、犬の方も受け入れてくれたように感じました。姉妹みつたいな関係ができたことも良かったと思いつます。（里父）

ずつと同じところに住んでいたので、近所の方もいきなり小さな子がいたら変だと思つうだろうなと、「里親をやることになつたので、その女の子がこれから一緒に暮らすことになつます」「皆さん、よろしくお願いつします」とはつきりお伝えしました。犬の散歩で会う人たちやお友達にも話しました。皆さんとつても喜んでくださり、今でも「ああ、大きくなつたね」と声を掛けてくれます。最初は少し迷つたのですけれども、何も隠すことはいないし、悪いことをしているわけでもないのです。幼稚園でも「引つ越しされて来たんですか？」「ごきょうだいはい？」といろいろ聞かれました。「実は里親なんです」「お預かりしているんだけど、本当の我が子だと思つて育てているので、よろしくお願いつします」とはつきりお伝えすると、とつても親身になってくださつて、いいお友達が何人もできました。一つのステップをのぼつたのですが、それからもずごく大変でした。私がトイレに行つてもずつとついて来たり、一人では出掛けられませんでした。また、どこかに出かけると今度は帰れないんです。動物園に行つてもその場から動かず、引つ張つて帰ろうとすると逆上して、「お母さん大つ嫌い！」と叩いたり、蹴つたりするので、気が済むまで一緒に残つていました。私は一時出かけるのが怖くなりました。お友達のおうちから帰るときも、相手のお母さんの顔がだんだんきつくなると、こつちもいたたまれなくて、引きずつて外に出し、抱きしめて泣いていたことがありました。何かの病気なのかな、発達障害、愛着障害、色々なことが頭をよぎりました。（里母）

場に対する思い込みが強くて、自分が気に入ったところから離れるのを嫌がり、それを言葉でうまく表現できなくて大泣きをする。体もすごく強張って、そこから離れようとしないことが繰り返しありました。無理やり抱き上げて、大泣きする女の子を運んでいるというのは、端から見たら人さらいじゃないのかという状況は何度もありました。かみさんに対してはすごく執着が強く、玄関を出ると「自分も行く！」と追いかけて、大きな声で1時間くらい泣き叫びます。毎回毎回「お父さんどいて！」と、ぶったり、蹴ったり、わめいたり、小さい体のありったけのパワーをぶつけてきました。何か悪いことをしているのかと悲しくなるような思いは何度もしたことがあります。（里父）

私自身も疲れてきたけれども、この子のほうが絶対に大変なんだろう、今まで普通の子供さんとは違う育ち方をしているわけだから、違って当然。だから、私たちは怒らない、無理やりに帰さない、と決めて対応していましたので、外の目はちょっと厳しかったです。「甘やかしているんじゃないか」「そんな育て方じゃだめだよ」「もっと強く叱りなさい」とか言われたりもしました。（里母）

叩いてもいいくらいのことを言う方は、何人もいましたね。（里父）

私達はこれでいいんだと思ってやってきました。とにかく気が済むまでつき合って、「大丈夫だよ」と言って、寝かすときは手や足を揉んであげたり、頭を撫でてあげたりしていたら、幼稚園の最後の年くらいにぼろぼろと泣き始めました。そんな泣き方を見たのは初めてでした。物凄く怒って私を叩いていた怒りを、涙が溶かしたと思いました。そういう泣き方ができるようになってから、色々なことがスムーズにできるようになり、彼女も楽になってきたんだなと感じました。（里母）

東京都に養育が難しいお子さんに対してどういうふうに親が対応すればいいのかというプログラムがあり、参加させて貰ってから僕らも対応が変わりました。駄目なことは繰り返し同じ言葉で返し、何かできたら一つ一つごほうびのシールを張り、タイムスケジュールを作ったりして、常に考えながら行動するようになりました。（里父）

夫と一緒に参加したことで、私がやっていることをわかってくれました。ここは静かに論そう、そのうちに行動が変わってくるだろう、と確認し合うことができました。じっくりとこちらが待つことで怒りを抑えることができるようになってきました。相談機関があるということはとても心強かったです。手順を説明してあげるときちんとできるが、苦手なことからは逃げる。顔を隠す、机の下にもぐる。人の気持ちを読み取るのが弱く、ずっと肩に力が入っているなど、言葉にするとこういうことだとわかりました。

（里母）

いまだに「抱っこして」と言われますし、散歩をしていけば、手を繋いでくれます。「お父さん」と言ってくれる子がいることで僕は父親をやっている。それが一番の喜びなんです。今のかわいさを貯金しておいて、中学生くらいなって、「お父さん汚い」とか何とか言われるのかもしれないけれど、「しょうがないか」と思えるだろうと想像しながら子育てをしています。（里父）

## 6 福のある子を育てる

### 【里母】

私の家は大家族でしたが家族が段々減り、主人はこんな大きな家に住んでいて、空いている部屋も沢山あるのだから、社会にお役に立てるように里親でもやらせて頂いたらどうかと申しました。私は抵抗したのですが、主人は絶対やらせてもらいたいとまずは週末だけお子さんをお預かりするフレンドホームから始めさせて頂き、小学5年生のお子さんをお預かりしました。彼は生まれて1歳前に両親が亡くなり、おばさんに育てられましたが、おばさんも行方不明になったという、悲惨なものを背負っている子供でしたが、大変子供らしくて表情の豊かな子でした。ところが家に来ると、場所を移動する時には武器が要るというのです。買ってくれというのはビニールの刀でしたが常に肌身離さず持っているのです。場所を移動する時も敵が来るとか、不審者が来ると言うのです。それでも段々家に慣れ、家に泊まる時にはお風呂も寝るのも主人と一緒にしました。

小学校の卒業式の時、養育家庭としてお引き受けをしました。その時にM君の担任の先生が私に、この子は両親とも早く別れて、ハンデを持っていますが、この子は福のある子です。どうぞ大変でしょうけれども、大事に育ててくださいとおっしゃったんです。

しかし、実際に引き受けたら今までの彼とは別人。敵は私一人です。出かけようとすると靴がない。探しますと、玄関の外の方のずっと向こうの方に置いてあったりするのです。M君でしょうと言うと、人を疑うのかと言うのです。それから色々な物を隠されました。急いで出かける時に車の鍵がない。何とかしなくてはいけないと思っておりました。

ある時私が、本当に携帯電話をどこに置いたかわからなくなり探していましたが、M君が、おばちゃんの行動範囲を大体見ていれば気がつく。多分あそこだって言った場所にあったのです。私が思わず、M君は探し物の天才ねと言いましたらにこっとしました。それからは、何かを隠された時には、探し物の天才、悪いけど探してくれない？と言うと、隠した車の鍵は、ソファの下に入っていました。あれでは絶対わかるわけがない。全くと思いましたが、そうだ、やっぱりこの子を褒めて育てなきゃいけないなと思ったのです。そうしましたら、そういうことは段々となくなっていきました。

しかし、学校ではトラブル続出。成績はオール1みたいなもので学校に行っても授業はわかりませんし、先生や友達も一体どういう人なのかわからない。本当にやっつけられないという顔をして帰って来るのです。私はおかえりなさいと声をかけるのですが、うぜっ、死ねなんて言われちゃうわけで、すごくまたその言葉が突き刺さるのです。ある時は、勝手に学校から帰って来て、何で自分で判断して帰ってきたの？と言ったら、施設を出る時に、これからの人生は、自分で判断して、決めて生きていきなさいと先生に強く言われたから、今日はもうここでいいなと思ったということの繰り返しでした。次に教室内で立ち歩く、奇声を上げる、先生に暴言を吐くといったことも始まりました。

どうしたらいいだろうと悩み、元いた施設の先生に電話をしたのです。そうしましたら、先生がすぐ飛んで来てくださり、M君の話はずっと聞いて、以前は、同じ施設から

50人も同じ学校にいて、そういう中でやっていたのに、誰もそういう仲間がいない所に来て、よくやっている。大したもんだと彼に言ったのです。小学校を卒業して、中学に行って、今こうやってアルファベットが書けているなんて天才だと言ったのです。本人も本当に喜んで、私はその姿を見て、いつの間かこの子を預かったからにはきちんと育てたいと色々圧力をかけていたんだと思いました。ある時主人の態度をじっと見ていましたら、主人も褒めるとか、黙って彼の話を聞くとか、そういうことしかしません。また暮らしていくうちに、彼は家の息子達の物言いをまねるようになってきました。M君にこれをやっておいてよと言うと、はあ？指示するのか、うぜえとか、そういう声が返って来ていたのですが、段々彼が家に慣れて来るに従って、うんうん確かに、とかなるほど、とそういう物言いをするようになって来ました。あれほど、反抗的な感じで暮らしていたのが彼も自分の家の中に居場所を見つけおさまりが良くなってきたのです。

大きなきっかけは、彼はある病院で生まれたという記録が残っていたのですが、私の知り合いがその病院でお産をしたので、その時に、M君を連れてその病院に行ったのです。御両親もいないわけですし、赤ちゃんの時の写真等も本当に何もありませんでしたが、初めてその病院に行って、沢山の赤ちゃんがあちこちにおいて、そこで知り合いの方の赤ちゃんを抱っこして、写真を撮らせてもらい、M君に、あなたは御両親の記憶はないかも知れないけれど、こうやってこの病院で色々な人がお祝いに来て、赤ちゃんを囲んで、幸せな顔をしているように、あなたも生まれた時にはみんなに祝福をされたのよ。ここがあなたが一番最初、この世に出て来た所なのよ。と言ったら、彼は本当に喜びました。それは彼にとって自分の出生時、全く知らなかった生まれたての時や幼い時のイメージをする基本になったと思っております。

彼には家庭というモデルがなかった。自分がこれから先、生きていく時に、どういう夫婦であり、どういう親子であるというそのイメージをしたくても、そのイメージができなかったわけです。ついこの間もガールフレンドの写真を見せてくれました。その時に、おばちゃん、僕は彼女とはけんかをしないように努力しているんだ、おばちゃん達は、僕の前で一度もけんかをしたことないから、僕は夫婦げんかというのはどういうふうにするかテレビでしか知らないんだよ。だから、やっぱり仲良くしなきゃと思っているんだと言うわけですね。ここのお兄さんは、誰もけんかをしない。僕も人とけんかをしないように、仲良くすることをいつも心にとめていたと言いました。彼は、家で育った期間というのは、フレンドホーム2年、その後6年間だけですが、その中で自分がこれから生きていく上で家庭というものがイメージできたこと、また、夫婦のあり方、兄弟のあり方がイメージできたことは、本当に幸せなことだと思えます。施設では学ぶことのできない、養育家庭ならではの醍醐味があるなと思うのです。

最初に小学校の先生に、この子は福のある子です。どうぞ大事に育ててくださいとおっしゃっていただいた、福のある子というのは、やはりそういう色々なことを私共夫婦、また家族に気づかせてくれた、そういう福であったのではないかと思っております。

## 7 家族は血じゃない

【里母】

今日いらした皆さんが里親を理解し、一人でも多くの方が里親になってくださるよう、願いを込めて体験発表をしたいと思います。

結婚して3年を迎えたとき子供がほしいと夫婦で話し合った際に、主人からもし子供がほしいなら親がほしい子の親になればいい、「家族は血じゃないから」と言われました。当時の私は、里親になるには責任が重いと感じ、フレンドホームに登録をしました。その後、体験発表会に足を運び、養育家庭に登録しました。そして紹介されたのが、発達の遅れのある長男でした。次の施設に行くことが決まっているが、家庭での生活をしたことがないので、家庭を経験させたいという要望がありました。

最初に通された部屋で長男に会ったのですが、長男は障害があるため、私や主人のことを知らんぷり。物と同じようにしか見てくれませんでした。段々私たちが来るのを待つようになっていました。

受託が決まり、自閉症と言われた4歳の長男の子育てがスタートしました。私たち夫婦にとって初めての子供だったので「これもできた、あれもできた」と思うことばかりでした。自閉症のため、こだわりや偏食、時折パニック等もありました。

そんな彼を育てるにあたり主治医からアドバイスが3つありました。1つ目は偏食です。こだわりがあって食べられないのだから、偏食はおうちの外では絶対戦わないこと。2つ目が、些細なことでも、ママが負けるのは一番よくないから、戦って負けるぐらいなら最初から戦わないこと。3つ目が、ダメなものは絶対だめ。それは外でもおうちでも一緒にすること。また「子育ては『まあいいか』と思えたらそれで100点だよ」と主治医から言われ、それを心がけながら子育てをしてきました。

電車に乗れば非常ボタンを押して電車を止めてしまったり、ホームで他人が落とした鍵を線路に投げ入れたり、バスに乗ったらバスの窓から物を捨ててしまったこともありました。飛行機に乗ったら、靴下と靴を脱ぎ、到着するときには私の腕や手が傷だらけ。今、思えば、本人は飛行機の全ての窓のブラインドを閉めたかったようです。国際線の初フライトは、10時間も氷だけをひたすら食べ続けていた長男。今では笑い話がいっぱいなのですが、当時はこれがいつまで続くのかと不安でした。

長男が幼いときは障害があるがゆえの苦労がありました。小学校入学までずっとおむつが取れず、「お母さん、ちゃんとトイレトレーニングはしていますか」と言われ、泣きながら帰ってきたこともありました。また、靴や洋服の新しい物がすごく嫌いなので、買い物へ行きお店に入ったら自傷を始めて私の腕にかみつきの、買い物はいつも散々でした。

我が家には長男のほかに、5歳年下の次男と、10歳年下の長女の3人がいます。家庭では気にならないことが、家の外に一步出してしまうと世間の目があり、社会の中では里子も障害児も少数派なのだと感じさせられます。例えば長男がずっとひとり言を言



っていること。次男が「（長男を）じろじろ見る人がいるから嫌だ」と言うこともあり  
ました。

次男と長女が生まれてから、長男は二人を可愛がり、よく私の手伝いをしてくれました。彼らが幼稚園に入るまでは、お兄ちゃんは障害があって一緒に遊べないので、とても疑問があったようです。ただ、小学生になると、うちのお兄ちゃんを助けることと、お兄ちゃんに助けてもらえることを理解していました。お兄ちゃんは僕たちのことを助けてはくれるけれど、絶対にいじめたりしない。お兄ちゃんは僕たちが嫌だと思うようなことは絶対に言わないと認識をしていました。また、長男が黙って母を手伝うのを見て、二人はお兄ちゃんをお手本にしているような感じがします。

長男は絵を描くことや車ウォッチングの趣味を持っています。また余暇活動としてボーイスカウト活動をしています。障害があるがゆえ、小学校5年生まで親が付き添って行きました。最初のころは式典の最中に寝転がるなどしていましたが、今は息子がどこにいるかわからない位、きっちり参加できています。また夜中に30キロ歩くナイトハイク活動にも参加します。冬でも月に1回野営して、トイレのないキャンプ場でキャンプをしたりしました。3.11地震のときに、マンションに設置された仮設トイレをスムーズに利用できたのも、こういう経験を重ねたからだと思います

子育てをすると子供の進路は大きな悩みです。小学校は地域の身障学級を選びました。中学校の時は、生活力をつけることに特化した進学先にしました。洗濯のやり方や調理実習の指導を受け、今ではお昼に一人でラーメンを作れるようにもなりました。

長男は検査上は6歳前後の知的障害だと言われています。身の回りのことができることを念頭に子育てをしてきました。小学1年生の時からごみ捨てを一緒に始め、小学4年生から洗濯物干しも始めました。当時の学級だよりも「できないからやらせないのではなく、まずは見せる。それから一緒にやる。それを続ければ必ずできるようになる」という先生のお言葉がありました。ただし、長男が家事をやる時はどんなに時間がかかっても本人のペースでやらせること。家族は最後にありがとうということにしています。

長男が何かを習得するには、3～5年かかります。でもそれは何倍にもなって彼に返ってくると思います。やってあげるとは簡単ですが、ただ待つこと、本人ができると信じることを彼を育てながら学びました。そして今、多くのことを一人でできるようになり、彼は立派に成長し、大人の階段を上り始めていると感じます。

中学生までは長男が私のことを必要としていたけれど、今は私が長男のことを必要とするようになりました。長男が我が家に来て12年。18歳の誕生日まであと1年足らずになります。今回の体験発表を機に家族で長男の自立について話をしました。小学6年生の次男は「お兄ちゃんがいなくなったら僕は生きていけない。僕のお兄ちゃんだから」と答えました。長男も大好きな次男と同じ部屋で寝られない日が来るなんて想像できないと思います。以前、私の夫が言った「家族は血じゃない」という言葉どおりこれが家族なんだなというふうに思っています。

## 8 短期のお預かりから見えてくるもの

### 【里母】

認定登録を受けてから12年が経ちました。当初は働いていたのですが、電車で片道1時間の施設に通っての交流は、仕事をしながらでは疲れてしまい、月に2回位しか会えなかったり、行くたびにずっと泣かれたりで、これは私には向いていないのかなと思い、児童相談所にも相談に行きました。「そんなことはないからね」「これからまた出会いもあるかもしれないから」「やめるということはいつでも考えられるけれども、もうちょっと頑張ってみませんか？」と言われて、何とか踏ん張ってきましたが、やりたいことは早くやってしまったほうがいいと思い、仕事はすっぱりとやめました。

一時保護所からの高校1年生の女の子のお話がありました。一時保護所というところはずっといられず、学校にも通えないのです。面接をして、大人しそうなので、お引き受けしました。1年近く暮らして、いろいろ性格的にも合わないこともありました。特に年齢が大きいお子さんというのは、育ってきた人生が15年なり16年あるわけで、それが何となく頭ではわかっていたのですけれども、実際に暮らしてみないとわからない点がいっぱいありました。価値観が違うところをどうすり合わせていくかで、養育者として私がちょっと我慢しようと思っていたのですが、20代半ばだった実子が、相入れないものがどうしてもあったようで、「私はね、ちょっとやっぱり合わないから、私が出ていこうか」とまで言われてしまい、それではひとり親家庭の里親として補助者の要件がなくなってしまうので困るし、実子のほうも大事でした。本当は高校卒業まで一緒にいたかったのですが、別のところに行ってもらうことになりました。今でも当時交流のあった別の元里子からその里親を通して近況を聞くことがあり、元気そうにしているということなので、よかったなと思っています。

その次にお預かりしたのは去年の3月で、うちの近くに住んでいた小学校4年生と中学3年生の姉妹でした。お母さんが入院することになり、その間も学校に通わせたいということでお預かりしました。私は結構厳しくて、きっちりしているので、「挨拶をしようね」「1日の流れの確認をしながら動こうね」とか、「やって欲しいことがあったら、あなたたちのほうから言ってね。それでやってもらったらありがとうと言うんだよ」などは、私にしてみれば当たり前なこと、同時に私からも「お願いするね、ありがとう」とちゃんと saying していました。大きくなってからはなかなか誰も教えてくれないので、うちにいる間はそういうことを言わせてもらいました。1日のスケジュールを、必ず朝、今日は何の予定があるのか言わせていたのです。カレンダーにも書かせて確認していたのは、見通しを持った生活をして欲しくて、ちょっとの間でもそういうふうな生活が、自宅なりに戻った時に、少しでも生かして貰えたらなと思っていました。でも、彼女たちにとってみれば、知らないおうちに来て全然生活が違うし、今まで挨拶もしていなかったようなので、かなりしんどかったのだと思います。その時実子に言われたのは「私の常識はあなたの非常識だよ！」でした。これは当たり前なことだと思っても、相手に

としては、全然知らないことだし、言われても「はあ？」という感じだから、余り押しつけてはいけないんだということがわかり、すごく勉強になりました。

3人目にお預かりしたお子さんは、今年の夏休み前でした。ひとり親家庭のお父さんの入院で、最初は区のショートステイを利用していたのですが、それも7日間までなので、一時保護委託でお預かりすることになりました。小学校の時は不登校で、やっと中学に行き始め、ここで学校をお休みさせるには忍びないということでしたが、彼女もなかなか手ごわいものでした。今の子はそうなのか、マスクをずっとしているのです。「食事の時はマスクをとってね」「挨拶をしてね」「お風呂に入る時も入りますとか、終わりましたとかちゃんと行ってね。交代で入るのだから、お願いね」と。1週間くらいかかって、この口うるさいお婆さんの家にいると、こういうことになるんだなというのがちょっとはわかってくれたと思いました。偏見で言っているのではないですけれども、お父さんとの二人暮らしだと、生活のことが無頓着な感じで、洗濯物を「洗濯機のところ置いてね」と言っても出してこないのです。その子のお部屋まで行って洗濯物を拾って来たりしました。とてもお父さんが好きで、ほとんど毎日学校が終わってから病院に面会に行っていました。お友達もいなくて、うちにいる間に初めてお友達のうちに遊びに行くことがあって、「ああ、よかったね」と送り出したのです。見送られたのも初めてだと言っていました。うちに来て彼女の経験が増え、良かったと思っていましたが、1学期最後の日の朝「学校に行っていないのですけれども、知りませんか？」と連絡が入り、「え、だって、学校行きましたよ。ちゃんと行ってらっしゃいと送り出しました」と答えました。「もしかして自転車ありますか？」と聞かれたので、見たら持って来ていた自転車がないのです。先に大きな荷物を自転車に積み込み、私がうちに引っ込んだのを見計らって、自分の家に帰ってしまったのです。家の鍵を持っていなかったのですが、鍵がなくても入れる扉がどこかにあるそうで、クーラーをがんに掛けてテレビを見ていたそうです。お父さんが退院の練習のために一時帰宅することを話していて、いても立ってもいられなくなったようです。無事でよかったのですが、よくよく聞くと、学校に行くと言いながら、よく休んで戻っていたようです。すごく驚きました。やられたというか、油断していたというか、甘く見られて悔しいとも思いました。短期のお預かりというのは、その前の交流がないので、どんな子かわからないのです。特に大きい子だと、いろいろ知恵があり、歴史もあるので、その辺まではちょっと考えられなくて、いい勉強になりました。子供とはこういうものだという先入観があったけれども、育ってきた家庭が全然違うので、それぞれ全く別個のものなんだということがよくわかりました。本当に私の常識は子供達にとっては非常識だし、その中でもよく頑張って我慢して、短い間ですけれどもいてくれたというのが、すごくありがたかったです。私も大分お婆さんなので、長期委託はもう無理だなと思っています。これからも短期委託でほかの里親さんの助けとなったり、また子育てで苦労しているお父さんやお母さんの助けになればいいかなと思っています。

## 9 夢と希望をもって飛び立てるように

### 【里母】

現在は、夫と小学校2年生の女の子の3人家族です。そしてすぐ近くに、最初に受託した、大学を出て社会人2年目の女の子と、医療系の学校に通っている21歳の女の子がそれぞれ自立して、別々に住んでおります。週末はその二人も帰ってきて、5人で食卓を囲むというような生活をしています。

私が里親登録をした理由としては、私は実子に恵まれませんでした。でも、すごく子供が好きで、フォスターペアレントとか、あしなが育英会、また地域のボランティアなど、さまざまなことをしていましたが、もっと身近に目に見えて、手応えのある活動はないかなと思っていたときに、たまたま広報紙で里親募集の案内を見つけて、早速申し込みました。もう20年以上前ですが、当時は、家庭で育てられない子がいるなら、かわって育ててみたい、一緒に生活したらどんなに楽しいかなというような気持ちでした。時々、もう何人も子育てをしているからベテランでしょうと言われることもありますが、実際保護される子たちは、生い立ち、環境等、その子の生育状況というのはそれぞれ異なります。もちろん性格も異なりますので、毎回、手探り状況から始まります。

昨年、小学校入学と同時に我が家にやってきたMちゃんですが、人一倍怖がり、誰かにぴたっとくっついていないと不安で、時にはパニックになって大泣きします。食べ物の好き嫌いも相当です。年齢にしては言葉が出るのが遅いかなという心配もありますが、これは気長にやっていこうと思っています。当然、調味料なども見たことがありません。夫がテーブルの上におしょうゆとか、お砂糖、お酢を小皿にとって、指でなめさせて、甘いとかしょっぱい、酸っぱいと教えるのは、こういう小さい子たちが来たときの恒例行事です。夫は子育てには協力的で、アウトドアは全面的に引き受けてくれますし、勉強も、理系のほうは引き受けてくれています。

Mちゃんは生まれてすぐ乳児院、施設で生活をしているので、家族とか家庭というものを全く知りません。1年生になって初めて友達の家遊びに行きました。夕方、勢い込んで帰ってきたのですが、「お母さん、何々ちゃんのうちには、ママとパパと赤ちゃんがいた。みんなのおうちにはパパっていう人がいるんだって。」それから自分のパパ探しが始まって、ちょっと大変でした。私たちがふだん普通で何の疑問にも思っていないことでも、Mちゃんにとっては未知であり、なぞの多い世界です。

私が心配したのは、小学校のPTAとか保護者会です。何人かのお母様たちには個人的に私が里親であることをお話ししました。すると、その中の数名が自分のかかえている事情を打ち明けてくださいました。今、マスコミなどで子供の貧困とか、ひとり親家庭のことが取り上げられていますが、これらって実際外から見ただけではわからないんだと、今や家族の形態は里親家庭だけではなくさまざまな状態になっているんだということもMちゃんを取りまく環境の中で実感しました。今、その子供たちをみんなで見守って育てていく輪がおぼろげながら広がりつつありますので、これが大きくなって

いってくれればいいなと願っています。

次に、今、21歳になる子です。保護されるまで、ヘルパーさんがつくってくれる御飯を寝たきりの祖母と二人で横になって食べ、そのまま深夜テレビを見て、昼夜逆転する暮らしをしていました。学校にも2年生から5年生までは行っていません。乳児期に両親が離婚し、今また唯一の肉親である祖母とも別れることになり、大人たちは自分を置いてどんどんいなくなる。大人なんて信用できないという思いが強く根底にありました。

そんな状態でしたから、座って御飯を食べられません。学校でも座ってられません。だんだん体が寝そべってしまい、仕方がないので、前につかまって授業を受けさせてもらうように頼みました。でもやはり1週間ぐらいすると、大人に対する信頼というものが全くないので、私たちに対する反発、反抗はすさまじいものでした。警察にもお世話になりました。正直、7年間で3回ほどめげてしまいました。児童相談所に駆け込んだこともありました。このときに手を差し伸べてくださったのは、同じ里親仲間の方々でした。相談に乗ってくださったり、子供を一定期間預かってくださる、そういうものも利用させていただきました。自分で頑張るって育てようと思いますが、どうしても物理的に無理なことは起こり得ます。でも、成人した二人を最後まで育てられたのは、周りの方たちの手助けがあったからだと思って、今でも感謝しています。

このCちゃん、21歳の子は、もちろん長所もあります。お年寄りや弱い立場の人にはとても優しく接しますし、手先が器用です。絵もプロ並みに上手です。そういう長所を将来生かせばいいなと常々思っていました。先日第一志望の大学病院から就職内定をいただくことができました。うちに飛び込んで帰ってきて、「自分は今までの人生の中で最高に幸せだ。こんな奇跡があるんだよ。このうちに来ていなかったら、高校も大学も行っていない。あのまま定職にも就けず、生きていなかったかもしれないよ」と言ってくれました。多分、彼女が生まれて初めて自分の手で勝ち取ったものだったのだと思います。それを聞いた時、私たちも心のつかえがとれて、本当に素直に喜べました。

私たち夫婦は教育方針に関して同じ目標を持っています。なるべく小さいうちからいろいろな体験をさせてあげたいと思っています。本当に百聞は一見にしかずです。そしてもう一つは、できるだけ教育を受けさせたい。大学、もし希望するなら、その上までも受けさせてあげたいと思っています。いざ18歳とか20歳になって、里親家庭を出ていかななくてはならないという時、飛び立とうとする時に踏み台がないと飛び立てません。だから、基礎となる土台をしっかりとつくっておいてあげたいと思っています。

子供を受託すると1、2年は親も、子供も双方大変な時期です。一人で我が家に飛び込んできた子供たちのほうが私より必死で、真剣に生きているのではと感じることも多いです。たまたま縁あって私たちのもとに来てくれた子供たちから私たちが与えてもらった喜びや楽しさはたくさんあります。私たちは、自分たちの親に育ててもらったようなことをしているだけです。この目まぐるしく変化する社会の中でも、夢と希望を持って羽ばたいてほしいと本当に心から願っています。

## 10 大変だったこともどんどん忘れてしまう！子供たちとの毎日

【里母】

養育家庭に登録して11年。現在は中学3年生になった男の子(T君)、小学校5年生になった男の子(S君)、小学校3年生になった女の子(Yちゃん)の3人を養育しています。正直、皆さんが聞いたら、こんなことしたくないなと思ってしまうような体験談もあるかもしれないのですが、今は家庭もとても落ちついていて、子供たちもすくすく元気にかわいらしく、本当に子供らしい3人に成長しています。最後にはほっとしていただけるのかなと思っています。

末の里子のYちゃんが家に来た時は、しゃべらない、歩かない、「お母さん嫌だ」という決まったセリフを大声で叫び、2、3時間平気で泣き続けるということが1年近く続きました。赤ちゃん返りもあったのかなと思います。児童相談所の方や乳児院の先生たちから「普通のお子さんですよ」という説明だったので、3歳を過ぎているし、こういう話をしたらわかるかな、という感じで、ついつい厳しく接してしまったところもあったと思います。それにしてもちょっとわからないことが多い、うまくいかないことが多い。そんな中でYちゃんは多分、泣くということで私に訴えてきていたんじゃないかなと、今となってはそんな風に思えるようになりましたが、当時の私は、いつ泣くかわからないYちゃんを見ると動悸がしてくるようになってしまった時もありました。乳児院からきたYちゃんが、少し話ができるようになった時に「お母さんは明日もいるの？」と聞かれたことがありました。普通、お母さんだったり、お父さんだったりというのはおうちにいるものなのですが、Yちゃんは明日もいる、明後日もいる、起きた時にも、御飯を食べる時も、お風呂に入る時も、同じ人がいる生活を知らない。乳児院では夜寝た時と、朝起きた時に違う人になっているんです。そういう生活を送ってきたので、いつもいるの？ と不思議に思ったのだと思います。きっと、Yちゃんは私のことを好きだったと思うんです。家にいる時はずっと私のことを観察して、ずっと私のことを見つめて、どこに行っても必ず振り向くと陰から見ている、そんなYちゃんの視線がとても辛くなってしまったので、ちょっと早かったのですが、幼稚園に入園させることにしました。うまく距離をとりながらと思って幼稚園に行ってもらっていたのですが、幼稚園でも、なかなか落ちつかない。ちょっと発達も気になるころがあると幼稚園からもお声がけされて、様子を見ていただいていたんですが、1年過ぎた頃、粘土細工で、真っピンクのキリンを作り上げたのです。他のお母さんたちは、「すごくかわいいね、ピンクのキリンいいね」と言ってくれたんですけど、実際、自分が育てている子供、自分の子供がピンクのキリンを作ったらとってもびっくりし、「やっぱり不思議だね」ということで、発達検査などを受けたほうがいいということになりました。結果は思っていた以上に発達にでこぼこした部分があり、「これはできる」と思ったのに難しかったという部分に気がつき、ますますYちゃんに接する態度を私のほうが改めなければいけないんだなという気持ちになりました。その頃からは、「これでいいのかな？」と思う

ようなことがあった時やすごく泣いた時でも、動悸がすることもなくなり、“こういう子なんだな”という、こちら側の受け入れる気持ちが広がったように感じています。“そっかそっか、私が上の2人の里子を育ててきた時に気づかなかったことをこの子は私に教えてくれたんだな”と思うようになりました。今振り返ると、とても大変だったなどと思いますが、それを乗り越えて、今もYちゃんの手を離さずに一緒に暮らしているのだなど、とても不思議に思う時もありました。

そんなYちゃんも現在は小学校3年生になり、小学校2年生からは特別支援学級に通っていますが、とても落ちついて、前向きに学校に通うことができます。

小学校5年生になったS君も特別支援学級に通っているのですが、すごく前向きに、自分のことをきちんとわかって、色々な気持ちを私に話してくれる、とてもすてきな男の子に育っています。S君は私のことを大好きだと言ってくれて、「でもね、産んでくれたお母さんにも会ってみたいんだ」とたまに思い出したように話します。“そっか、会いたいんだね”と私が言うと、「会ってね、ここのおうちに行けるようにしてくれてありがとうと言いたいんだ」って、とてもかわいらしく言ってくれます。S君はすごく優しい子で、でも、家に来た時は本当に大変でした。S君もとてもよく泣く子で、いつも泣いていたので、私は、多分、泣いている子がすごく苦手なんだなということを、S君とYちゃんを育てていく中で知っていくことができました。

そして、中学3年生のT君。今は元気いっぱいですが、中学1年生の時には、不登校になってしまったり、家の壁にも穴が3つか4つあいてしまったり、色々ありました。先輩里親さんたちから、男の子は壁に穴をあけるものだと何度もお話を伺っていたので、あけたときには、“ああ、あけちゃったね”と思ったんですが、本人が「大事な家を傷つけてしまった」とすごくショックを受けていました。そういう風を感じる心を持っていてくれたことに私はすごく感謝しました。とても優しく、いい子なんですが、なかなかそのいいところを他の人たちに見せることが苦手で、うまくいかないことも多いのですが、現在は不登校の子たちを受け入れる公立の中学校に毎日楽しく通っています。

こんな風に、周りの支援や、先輩たちの言葉や、中学校や小学校の先生たちの協力や、色々な方たちの力をかりて、今、“ああ、うちは何とかなっているな”というような日々を送らせてもらっています。大変なこともたくさんありますが、いつも子供たちから「ありがとう」と言われたり、「お母さん大好き」と言ってもらえるので、嫌だったこととか、辛かったなと思うこと、大変だなと思うことをどんどん忘れていってしまいます。子供たちも、自分たちがそんなに大変なことをしたんだぞという思いは全くなく、すごく前向きに頑張る子たちになっているなど頼もしく思っています。ついつい小さい子を見ると、“ああ、かわいいな、もう一人、うちにいてもいいよね”というような気持ちになってしまい、家族みんなで小さい子が来るといいねと希望しています。養育家庭としてもう一人、長く子供を育てていけたらな、まだまだ子育てをやっていききたいなど思っているので、これからも頑張りたいと思います。

## 1 1 二人の娘をむかえて

【里母】

我が家は、夫婦と娘二人の4人家族です。現在小学校1年生の7歳の娘を長女、1歳11カ月の娘を次女と呼ばせてもらいます。まず、長女のことについて、お話しさせていただきます。長女は、特別養子縁組で授かりました。

乳児院での交流が始まり、こちらは100%受け入れ体制なのに、当時1歳半の長女は、私たちの顔を見るなり号泣する日々に、すぐには私たち夫婦になれてくれませんでした。そんなある日、長女から私の手をつかんでくれたその日のことを、今でもはっきり覚えています。乳児院では、面会の次に、外泊へ続くのですが、我が家に1泊して乳児院に戻り、次は2泊して乳児院に戻りと、だんだん宿泊数をふやし、子供が乳児院に戻ったときに、私から離れたくないと泣いたりするアピールが出たときに、長期外泊へ、そして委託へと進みました。偶然にも、我が家の長女として戸籍が移動したその日は、私の誕生日でした。人生の中で一番うれしい誕生日プレゼントは、私にとっては長女の入籍でした。長かったのですが、諦めずに進んできてよかったと心底思っています。

私は、長らく保育士を続けてきました。今は主婦です。主人は、現在老人ホームでケアマネジャーをしております。長女の特別養子縁組の研修を受けているときに、養育家庭やファミリーホームについても学ぶことができました。こういった制度があることを知って、夫婦の中では、長女にいろいろな形できょうだいをあじあわせることができるかもしれないと考え始めていました。

特別養子縁組の登録は解除していたので、縁組が成立した1年後に養育家庭の研修を受講し、その1年後には乳児委託研修も受けました。乳児委託研修を受けたきっかけは、長女に男の赤ちゃんが欲しいという希望があったからです。

次女の話が来たのは去年の8月です。長女が希望の男の赤ちゃんではありませんでしたが、長女よりも年下の8カ月の女の子でした。その話を長女にすると、笑顔で「いいと思う」と返事を聞きました。

児童相談所から次女の話がきて、約半年の期間で委託となりました。長女と比べると、かなり早く委託まで進むことができました。これは次女の性格が後押ししていることも確実です。まず、心がいつも安定しているので、夜泣きは一切なし。とても気が強い子なので、私に叱られても、逆ギレをして、物を投げて怒ったり、医者にかかると全て素直に聞き入れるので、お医者さんや看護師さんにいつも褒められたり、サービス精神も旺盛で、いろいろな人にお菓子を振る舞ったり、ばいばいしたりできる。行動を見ているととにかく笑います。長女のときは感動で涙腺が緩みっぱなしでよく泣き、次女のときは何だか心穏やかでいつも笑顔で過ごせた気がします。これは親側に2人目の余裕があるのかもしれない。

血のつながりががない姉妹について、お話ししたいと思います。急に二人姉妹になって、最初は優しかった長女は、気の強い次女にたたかれて泣く。とにかく次女は気が強いので



で手が早く、よく姉妹げんかに発展します。長女は時に、次女に向かって、「乳児院に帰ったらいい」と言い出すありさまです。そんなときは私の決め言葉で、「今は赤ちゃんがよくわかっていないかもしれないけれども、大きくなったら絶対頼りになると思う」と。この言葉は私自身にも言い聞かせているように思います。血のつながりも大事なことでしょうが、それより一つ屋根の下で暮らす時間こそが大事なのだと思います。けんかができることは、とてもよい関係なのだろうと思います。お互いが相手の気持ちを直球で知ることができるのですから、こんなにいい社会勉強はありません。

真実告知についてなのですがすけれども、真実告知については、長女が4歳の誕生日から、絵本を読むところから始めました。我が家が読んだのは『ふたりのおかあさんからあなたへのおくりもの』という本です。一人のお母さんはあなたを産んでくれた。でも、離れることがその時にできる精いっぱいのお母さん。もう一人のお母さんは、神様があなたと引き合わせてくれて、これからずっと愛し続けてくれるお母さん。あなたには二人のお母さんがいて、どちらかが本当のお母さんというわけではなく、どちらも本当のお母さんだという内容です。次女にも4歳の誕生日から絵本を讀んでいこうかなと思っています。

縁についてなのですがすけれども、私は1度だけ自然妊娠できたのですが、その妊娠がわかった時期に旅行に行きました。数年後、長女と3人家族になって再度同じ場所へ訪れてみました。夫婦で、「ここは前に来たよね」と話していると、長女が「私も来た」と当たり前のような一言。私は、何となくその言葉を流せず半信半疑のまま、「ママは1回だけおなかに赤ちゃんが来てくれたことがあるのだけれども、あのときママのおなかにいたのは長女なの？」と聞くと、長女がうなずくのです。そして、「頑張って何回もママから生まれようとしたけれども、途中で息が苦しくなって死んでしまった。どうしてもだめだから、ほかの人のおなかから出てきた」というのです。私は長女に、ありがとうと何度も言いました。この年齢の子供にしては、つじつまが合いすぎて、本当に驚いたのと、今までの努力が報われた気持ちになって、胸が熱くなりました。何よりも、告知のことなどで先の不安があった私の心が、このやりとりがあつてからというもの強くなれたのでした。縁があれば引き寄せられるものだと思い知らされたエピソードでした。

全てをさらけ出して、本当の家族になれば、血のつながりがなくてもかけがえのない存在になっていくはずです。答えは一つではないとも思っています。いろいろな家庭があつて、いろいろな方法があつて、いろいろな問題があつて、それでも、この子と生きていくと覚悟を決めてもらえたら、一生懸命は伝わると思っています。

最後に一つ、特別養子縁組も里子も変わらないのは、生みの親と離れて暮らさなくてはならなくなったということです。その事実を知っている子供にとって、何があつても一緒にいてくれる大人の存在や、ふらりと帰れる家があるというのは、生きる力につながると思っています。

## 12 子供を預かって得た充実感

### 【里父】

私は現在、里親として女の子を預かってから1年3カ月が経過しました。これまでの経緯とか感じたことなどを率直にお話しさせていただきます。

仕事もようやく一通り覚えてきた社会人4年目に結婚しました。30歳までは妻と二人で幸せな日々を過ごそうなんて勝手に決めて、子供ということは余り深く考えていませんでした。一方、妻は早く子供を授かりたいと思っていたようです。その後、30代半ばで妻が妊娠をしました。喜んだのもつかの間だったのですけれども、流産をしてしまいました。それから病院に通い、不妊治療を始めました。不妊治療は特に女性の方は大変だと思うのですけれども、薬の副作用ですとか検査、妻は一生懸命耐えていました。私は、妻の話の聞いたりすることや、金銭面でしか支えることができませんでした。

40歳を過ぎて治療を諦めたときに、夫婦で何度か話し合っ、養子縁組を結ぼうと決め、管轄の児童相談所を訪問しました。担当の方から、ほっとファミリーという、いわゆる養子縁組を目的としない、養育する里親制度があるという話を受けました。そのときの担当の方が非常に丁寧に、熱心に御説明いただき、自分たちの心に刺さるものがありました。これまで仕事中心で過ごしてきた、当時社会的養護という説明を受け、その言葉が自分のところに、申しわけなさというか、全く地域貢献をしてこなかったの、何か自分の心に刺さりました。何日間か夫婦で話し合っ、養育里親制度に決めました。

翌々月には2日間の研修を受けに行っ、その翌月にはもう児童養護施設での研修があります。それを経ると、里親として登録がされます。その2カ月後ぐらいに、今うちの家庭に来ている女の子の紹介を受けました。当時1歳半でした。

最初に訪問したのは去年の3月でした。乳児院を訪問しました。自分は、仕事がありますので、主に1週間に1回、週末に午前中だけ訪問をしました。妻のほうは週に2～3日訪問していました。妻は一生懸命、自分が週に1回行くと、この人はパパなのよと話しかけていました。そういった交流が、お互いがなれていく中で非常に必要なことだなということで、特に何回来てくださいということは言われずに、私は週に1回ぐらいしか行けなかったの、およそ3カ月通っていました。妻が交流に行った日は、今日は絵本を7回も読んだとか、もう1回、もう1回と言われてすごくかわかったとか、あと、今日は公園から帰るときに嫌だとすごく泣かれちゃったとか、報告してくれるのが、自分にとっては非常によかったです。

交流の初期は、施設内でほかの子供たちと一緒に遊んだり、慣れてくると、自分たちと3人で近所の公園に遊びに行きます。今度は外出をし、1泊の外泊、2泊と、徐々に距離感を縮めていくような過程がありました。

翌々月ぐらいで、1カ月の長期外泊という期間になります。この1カ月の長期外泊を経ると、そのままもう施設には戻らずに、本格的にスタートとなります。3月に始めて、本人がちょうど2歳になった8月の初めのほうに長期外泊がスタートしました。うちに

来た初日、興奮していて、夜遅くまで寝ずに遊んでいたりしました。こちらは慣れてくれなかったらどうしようかなという不安もあったのですが、余りその辺の心配はなく、むしろ自分たちの生活が子供中心にがらりと変わってきますので、そのあたりが非常に大変だったかなということと、あと実子がいなかったので、0歳から2歳までの子育て経験がなく、2歳の子供がいきなりやってきます。慣れないことが多くて、それが非常に大変だったかなと。特に自分のほうは平日に娘に会うということではなくて、週末にしかほとんど会えないので、平日一緒にいる妻のほうが非常に大変そうだなと思っています。

当初、来たときが夏で子供があせもになったぐらいで結構あたふたしたりしてしまったり、夜泣きで、ちょっと寝不足気味になったり、非常に大変な思いをしました。うちの妻のほうで2時間ぐらい絵本をずっと読んで、割と根気よく寝かしつけていたことが印象に残っています。何より娘の笑顔を見たりとか、手をつないで一緒に出かけたりとか、寝たりという、この子供のいる生活というのが何ものにもかえがたいなというか、大変なのですが、非常に楽しいですし、今までと違った充実感があります。あとは、ちょうど来たのが2歳で、今、3歳になっているのですが、言葉もかなりいろいろ覚え、自我も芽生えてきています。一方で、イヤイヤ期で、何でも嫌だとだだをこねたりもしますので、非常に大変なのですが、例えば自分がたまに早く帰ったときに新しい言葉を、えっ、そんな言葉を使うのみたいな感じのことを思ったりするとき、ひそかな感動かなと。何よりパパとかママとか呼んでくれることが非常にうれしいかなと実感しています。

里親サロンという集まりがあるので、やはり先輩の方たちがいっぱいいらっしゃるのですが、非常に親身に相談に乗ってくれて、頼りになります。たまに、あれ、これはどうなのかなとか、どうするんだろうというときも、悩むこともあったりしますので、その里親の集まりがあるというのはいいかなと思っています。

今ちょうど預かって1年3カ月ぐらい過ぎたのですが、変わったなと思ったことが幾つかあるので、今までは余り気にせず見過ごしていたような景色が、違ったような見え方をするなど。今まで単純に子供がいるんだぐらいにしか思っていなかったのですが、子供を育ててきたというのを考えると、すごいなと本当に感心したりします。街でも子供を連れた家族などを見ると、必ず目がそっちへ行ってしまう、これは本当に経験してみないとわからないことなのだなというのが実感としてあります。そもそも、数年前は里親をやろうというのは全く夢にも思わなかったのですが、まさかこんな状況で、ここで発表しているとも思ってもいないのですが、実際にえいやと決めてみて、子育てしているのですが、皆さん子供を持っている家庭はそうなのですが、大変なことも多いのですが、それも経験できますし、それ以上にやはり子供がいるというのは非常に喜ばしいなど、本当に充実した日々が送れるのではないかなと思います。以上になります。ありがとうございました。

## 13 短期委託の里親を経験して

### 【里父】

私は、6年前に60歳で定年となりまして、日常は陶芸とか太極拳をやっています。地域の老人会にも参加していきまして、役員をやっていただけないかというようなお願いをされたこともありました。私たち夫婦には子供が二人いまして、長男、長女ともに結婚し、今は別に住んでおります。娘には双子の女の子と幼稚園の男の子がいます。長男には最近、男の子が生まれまして、現在、孫が4人になりました。

今から十数年前に東京都の広報誌に養育家庭募集の記事があることを妻がを見つけ、妻から相談され、養育家庭に登録することになりました。養育家庭は、養子縁組を目的としないで、家庭で子供を預かる制度です。夫婦であれば、保育士や看護師の資格は必要ないとのことでしたので、私たちにもできることだと思って登録いたしました。

当初から、18歳まで長期で預かることを予想せず、短期の仕事だと思い、登録いたしました。長期の委託の場合、前もって数回の交流を経て、子供を預かるようになりますが、私たちの場合は短期ということで、児童養護施設への入所前の一時的な預かりや、母子家庭の急病や暴力等の理由から、当日、児童相談所から、今日から預かってもらえますかといったお願いが今まで数件ありました。

今まで36名を預かりまして、その中には兄弟が6組いました。年齢は4歳から18歳までで、短い子は4日間、長い子は6カ月という子もいました。養育家庭を始めた当初は、母子家庭で母親が入院して、2～3週間預かる小学生が多かったと記憶しております。この数年は、中学生、高校生と預かる子供の年齢が上がってきました。最近は夏休みに補導され、警察から児童相談所を経て預かるという子供が多かったです。また、家庭内の虐待を理由に委託される件数が増えたように思います。

登録後に最初に預かった5歳の男の子は、母親が入院のため、2カ月間預かりました。久しぶりに小さい子供を家庭に迎えました。当時は、長男は22歳、長女は20歳の4人家族でいましたので、小さい男の子を少し不安や楽しみな気持ちで迎えました。笑顔がとってもかわいい子なので、我々はほっとしました。まだ幼稚園児でしたので、妻が知り合いだった近くの幼稚園の理事長に短期間でも入園できないかと交渉して、快く了解していただきました。養育家庭というものはこういった協力体制がないと実現しないことを痛感いたしました。

また、一番気を使うのは食事の問題です。好き嫌いの多い子は食卓も大変ですが、そういうことは心配のない子でした。体は少し小柄でしたが、食欲があり、肉がとても大好きな子でした。焼き肉のときは「明日もやってね」と言っていましたから、何も困ることはありませんでした。お風呂は、私が早く家に帰っていましたので、いつも一緒に入れてあげました。日曜日にその子と二人で多摩動物園へ出かけたこともありました。動物園の中でライオンバスに乗ったとき、バスの窓につけてある肉を目がけて大きなライオンが飛びかかってくるのを見てびっくりしていました。コアラ館では、木の上にい

るコアラを見て、いつまでも「全然動かない」と言っていました。動物触れ合いコーナーではウサギやモルモットが放してあり、ウサギを抱いて喜んでおりました。動物が大好きな子でした。

またある日、その子が風邪を引いて近くの病院に行ったとき、本人の受診券を出したんですが、その病院で提示しても理解されず、養育家庭の制度がまだ知られていないことを実感しました。もっと広くこの制度を知ってもらおうようにしたほうがよいと思います。最近では、受診券を出せばすぐに診てくれますけど、その当時は受診券を見せても「何ですか、これ？」と院長先生に言われたこともありました。

この子とは2カ月間の楽しいひとときでした。

次は、東日本大地震のあった年です。この年は1月から中学1年生と小学5年生の姉妹を7月末まで、我が家として初めて6カ月という長期間預かりました。最初、2人のお母さんの病状が安定せず預かる期間がわからなかったのも、子供たちの通学定期を1カ月分しか買えず不便でした。二人とも我が家から通学距離が遠く、3月11日の東日本大地震で交通が大混乱した際は二人とも我が家に帰って来られませんでした。中学生の子は学校の体育館に泊まり、小学生の子は担任の先生の自宅に泊めていただきました。翌朝、無事に10時ごろ帰ってくることができました。その後、余震などによって長い通学時間が心配でしたので、直前の春休みまで学校を休む判断をしました。当時は、私の娘の4歳の双子の女の子と8カ月の男の子も我が家で一緒に生活をしました。このとき、姉妹がよく孫たちの面倒を見てくれました。

今、お話ししました子供たちは、数カ月間でしたが、8割方は2～3週間程度預かる子供がほとんどです。例年は1、2名を預かることがほとんどでしたが、今年の夏は入れかわり立ちかわり6名の子を預かりました。

現在は高校1年の女の子を預かっております。学校ではダンス部に入っていて、あまり太るとだめだといひ、ダイエットをしています。夕食のお米はほとんど食べません。お弁当や夕食も米抜きの食事をしてはいますが、クラブ活動は一生懸命やっているようです。

家庭での私の役割はお風呂掃除、ごみ出し、草むしりです。部屋の掃除は妻と二人でやっております。養育家庭としての養育の中心は妻が担っており、私はサポート的な役割しかできませんけど、お互いに理解しながらやっております。今後も時間と体力の許す限り、養育家庭にかかわっていきたいと思っております。



## 14 僕が思う里親と里子の関係について

【元里子】

まず、僕の生い立ちを簡単にお話させていただきますと、小学3年生までは両親がいる家庭で育ち、その後、両親が離婚し、母方に引き取られて、祖母宅で生活していました。その後は祖母宅からも独立し、母と僕と弟の3人という生活だったのですが、母が体調を崩すということもあって、中学生のときに里親さんのところに委託をされて、そちらのほうで、3年間過ごさせてもらいました。

その中学3年間過ごしていた里親さんのところは、主に家で祭事みたいなことをやっていて、さらに不動産屋みたいなこともやられていたみたいなのですが、家には常に里父さんと里母さんがいるという家庭でした。基本的に朝と夜のお勤めごとのほか、定期的にある祭事みたいなものが家の中心として回っているような家庭で、僕のほかに社会人の実子の方が2人、里子として入っている子が2人という家庭で3年間過ごさせてもらいました。

その3年間では、里父さん、里母さんの朝と夜のお勤めごとや、定期的にある祭事が生活の中心になっていて、僕は勉強に集中したかったということもあり、家のことに参加できなかつたり優先したいことが違ったりするということが結構ありました。里父さんとしては、家のことを優先して欲しいということがあったのですが、僕としては、ある程度家のことに参加して、でも、自分としては自分のテリトリーというか、自分はこの勉強をやって、行きたい高校があるんだ、というような感じで考えていました。その里親さん宅で過ごす最後には、高校3年間は別の家庭で過ごしていきたいということ、里父さん、里母さんと直接というよりは、児相の担当者の方を含めて話し合っという感じ、それで高校3年間お世話になったFさんのところにやってきました。

そんな形だったので、普通に僕は僕で自分のやることをやって、住まわせてもらうだけのような感覚でFさんもいたと思いますし、僕もそう思っていたのですけれども、実際はそうではありませんでした。僕の生活習慣、特に、夜更かししたりだとか、朝起きるのが遅れてしまったりすることを結構厳しくというか、怒られるというか、叱ってくださることが多かったですね。

なので、僕は高校生の時からFさん宅にお世話になったのですけれども、そんなに遅刻はしなかったと思うのですが、学校に遅刻しないで行きなさいとか、挨拶はしっかりしなさいとか、すごく基本的な、それこそできていないと恥ずかしいようなことを割と言われました。でも、今から考えると、こういうことをして欲しいとか、こういうことが気に入らないからこういうことをしなさいということではなく、客観的に誰が見ても、絶対に正しい事をきちんと伝えて頂いたのだと思いました。当時は高校生だったので言われたら反論したくはなるのですけれども、反論しようがないことを怒られて、叱られていたというイメージがあります。今から見ると相性みたいなのもあると思うのですが、僕はFさんがそうやってしっかり向き合っ言ってくれたということが、自分の

「変えなければ」というモチベーションにつながっていったのかなと思います。

僕が中学生の3年間のときにお世話になった養育家庭の、実子ではない里子の2人は、2～3歳のときからずっと高校のときまで育っていたので、ほとんど普通に実子として育てられていたようなのですが、確かにその2人は小さいころから祭事に参加するのが習慣になっていた部分等もあり、うまく折り合いをつけて、そこが自分の育ってきた場所、これからも関わって育っていく場所だというふうに認識していました。なので、僕にとってその里親さんが駄目だったとか、うまくいかなかったというよりは、僕はそこで折り合いというか、うまく馴染めなかったのだと今になって思います。

里親さんは、ある程度の覚悟というか、こういうことがあるのだろうかというのをいろいろ思った上で、こういう子なら受け入れよう、頑張ろうと思って受け入れて下さるものだとは僕が感じているのです。でも、基本的に里子としては、この里親さんとこの里親さんを比べて、じゃあどうかなど考えたり、高1から里子になろうと考えたりしているわけではないと思うのです。もともと会ったところから、この里親さんのところに入るみたいなことなので、まず気持ちの持ちようというか、最初のスタート段階がある程度違って、やはり里親さんは頑張ろうとか思っていることもあり、子供としても馴染もうと思うところはあるのですけれども、そこを自分の居場所だと認識するかどうか、大切だと思います。例えば僕が高校を卒業して大学に通ってからも交流が持てるかどうかだったり、自分がそこで何年間か過ごせてよかったなと思えるかどうかの一番のところは、ここが自分の居場所であり、帰ってくる場所だと考えられるかどうかだと思っています。

今もひと月かふた月に1度とか、Fさんの家庭に帰って食事をさせてもらったり、近況を報告したり、そういう関係は続いています。いきなり電話をして「次の土日に帰ってもいいですか」みたいなことを尋ねると、里父さんから「僕はいないけど全然帰ってこいよ」みたいなことを言ってもらったりして、里親と里子の関係は、委託期間だけではなく、自立した後とかも基本的に続けていけたらいいものだと思います。そう考えると、里親と里子の関係がしっかり形成されることができたら、委託期間だけの関係で終わる事はないのかなと思います。その理由は、僕のお世話になったFさん宅には実子の方が3人いて、僕は兄貴と呼んだりしているので、実の兄弟と変わらない、実際に僕は4番目の息子だと思っているからです。もし今から里親になろうとかいう方のお宅が自分の居場所になれば、本当に家族の一員として迎えられるというか、うまく馴染むことができ、多分本当の息子、娘のように、その後もずっと関係が続くものなのではないかなと僕は思います。

## 15 一番ほっとできる居場所

### 【里母】

私たちは、里親登録いたしまして15年がたちました。今日は、里親をやらせていただいていた体験や、感じたことを発表させていただきたいと思います。

この15年の間に、長期、短期、レスパイト、緊急一時保護と十数名のお子さんたちとかかわらせていただけてまいりました。現在は、長期で11歳になる男の子、K君を2歳からお預かりしています。研修で初めて、親がいながらにして育ててもらえないお子さん方や、我が子を自分の所有物のように扱っている大人たちの多いことを知りました。もちろん育てたくても育てられない方もおりますが、本当に驚きました。里親に登録しまして半年後、依頼の電話がありました。Eちゃんという3歳の女の子が家にやってまいりました。

最初は、腫れ物にでも触れるように気を遣い、帰りたいた言われぬように、マニュアルどおり、怒らず、何でも要求に応じてあげていました。そんなEちゃんにも赤ちゃん返りや試しの行動というものがやってきました。何をすることも、抱っこも容赦なく自分の欲求をぶつけてきました。3歳なのに昼寝もせず、夜もなかなか寝ないで目の下が真っ黒でした。欲求が満たされないと、泣き叫び、こちらのストレスも日に日に増してきて、施設での生活のほうが良かったのではないかと不安が募ってまいりました。

でも、見ず知らずの我が家にたった一人でやってきたわけで、私達の何倍も何倍も戸惑い、不安でいっぱいだったと思います。保育園に通園して間もないころ、教室でEちゃんが私の手を引っ張って、お友達に向かって、「ねえねえ、みんな、私にはお母さんがいるんだよ、お父さんもいるんだよ」と、満面に笑みを浮かべて自慢げに叫んだのです。本当にあのとときの顔は今でも忘れられません。私は思わずEちゃんの手をぎゅっと握りしめていました。当たり前じゃないんだよね。そのとき、私の重い肩の荷がすっと下りたような気がいたしました。

もう一人、K君も迎えました。家に来た当初、やたらと「お母しゃん、お母しゃん」と呼んでいました。「はあい、はあい」と返事をして、聞こえないふりをして何度も何度も呼ばれました。学校に行くようになり、帰ってくると「ただいま」と大きな声で、これもまた何回も繰り返します。私もそんな声を聞くと安心しますが、「もう、さっきからお帰りなさいと言っているでしょう」と言うと、K君はいつもにかっと白い歯を見せました。

また、Eちゃんが4年生のころ、児童相談所に向かう電車の中で、体をぴたっとくっついて、「ねえ、お母さんは私より早く死なないでよ。」えっ、お母さんは化け物じゃあるまいし、Eちゃんより長くなんて生きられないよ。「じゃ、私の産んだ子は見てくれる?」。見る見る、お母さんが元気なうちによろしくねと答えるのが精いっぱいでした。本当にショッキングな会話でした。まだ10歳の子がこんなことまで心配しているのかなと思うと胸がいっぱいになりました。



短期でお預かりすることもありました。親の病気や事情で一定期間、子供さんをお預かりするものです。当初の予定より多少延びることが多いのですが、期間が過ぎれば実親さんのもとに戻りますので、少しは気が楽です。

あるとき、Eちゃんと同じ年の女の子で、小学校卒業式の前後5日間だけという話をいただいたときは多少心配しましたが、Eちゃんも「いいよ」ということで、5日間だけなら大丈夫だろうとお引き受けいたしました。ところが、そのままうちで見ることになりました。正直この期間は大変でした。同い年が二人。入学当初は仲よく元気に学校に登校してくれていました。いい面もありました。でも、悪いことも一人より二人、輪をかけて大胆になり、あれこれやってくれました。1年後、実母さんのもとに戻り、やれやれでした。短期委託は短い間ですが、それでも一緒に過ごしていると情も湧き、迎えが来ると、「大丈夫かな、元気で頑張ってるね」と思ってしまいます。

レスパイトでお預かりしたお子さんも何人かおられます。レスパイトというのは、同じ里親さん同士で、家族だけで旅行をしたいとか、結婚式でどうしても里子連れを連れていけないなどで、ほかの里親さんに預かってもらうシステムです。1年間に7日間使えます。

そして、我が家で一番多いのが緊急一時保護です。児童相談所が家庭の状況で保護したお子さんですが、保護所がいっぱいだと、養育家庭に電話をし、受け入れ先を探します。家を飛び出し、児童相談所に助けを求めてきたお子さんを預かったことがあります。翌日、すぐ連れ戻されました。できる限りお引き受けさせていただこうと思っておりますが、こちらの都合もありますから、お断りしたことももちろん何度もあります。

里子を通して、この子たちは生まれながらにして大きな重荷を背負わされていると思います。その生い立ちや境遇を消すことや変えることはできませんし、里子たち自身も自分では気づかない心の奥底に抱えているものを取り除いてあげることが私たちには無理かもしれませんが、でも、運命は変えていけるのではないかなと信じています。

我が家を一番ほっとできる居場所になってほしいと願っています。この子たちが自立に向けて、また、幸せな家庭を築き、責任ある親となってくれることを夢見ながら、これからも見守っていきたいと思います。

何年か前のある児童相談所に、「へこんだら、きっと誰かが空気を入れてくれるから。人間って、そういうこと。」というフレーズのポスターが張ってありました。そうだ、そうだ、里親は里子の態度にへこみっ放しだと思いましたが、満たされない小さな心で一生懸命生きようと努力している里子たちのその心に空気を送ってあげられるのは、友達だったり、先生だったり、時には近所のおばちゃんだったり、でも、一番身近にいる家族だと思えます。

15年の歳月が流れ、年限だけは重ねてまいりましたが、まだまだ里親、里子と、お互いが育て、育てられての状態です。この先またどんなことが起きてくるかわかりませんが、その都度、児童相談所の職員の方々や同じ里親さん仲間と相談したり、愚痴を聞いてもらったりしながら、気負わずやらせていただきたいと思います。

## 16 私の家族

### 【里母】

私が里親になったきっかけは、1枚のポスターでした。そのポスターは児童養護施設や乳児院で生活している子どもたちを週末や休みの日だけ家庭に連れてきて家庭生活を体験させてあげるというフレンドホーム募集のものです。その後、フレンドホームで交流のあった施設から電話があり、当時交流していた6歳のR君が、私たちと一緒に住みたいと言っているの、ぜひ里親登録してくださいと言われました。私たちを必要としてくれている子どもがいるのであれば、その思いを大切にしようと思い、主人と話し合ってから覚悟を決めて、登録したのを記憶しています。

もともと私も主人も子どもが大好きだったので、子育ては何とかなるだろうと、すごく簡単に考えていましたが、実際に里子を受託すると、生活が180度変わりました。24時間、365日一緒に生活してみると、私たちは覚悟を決めて里親になったはずなのに、こんなはずじゃない、何でこれができないの、これはこうするんだよって、お互いにぶつかることもありました。そのR君は、今は22歳になって、18歳の時に満年齢解除となった後も、家から専門学校に通って介護福祉士の資格を取得し、今は老人ホームで働いています。

現在の家族を紹介します。主人はファミリーホームの養育者として、私をサポートしながら、将来、子どもたちにお金がかかるからと言って、日中は一生懸命働いてくれています。

高校2年生の女の子は4歳から受託しています。彼女が来たばかりの頃は、一人で寝ると言ったり、私は大丈夫といった感じで過ごしていました。初めて一緒に布団に入った時は大声を出して泣くわ、わめくわ、大暴れ。私は彼女のことを抱き締めて「大丈夫、大丈夫」と、ずっと背中をなでて落ちつくのを待っていましたが、結局泣き疲れて寝てしまいました。これまでいろいろなことを我慢してきて育ててきたんだと思います。今ではとてもしっかりしていて、チャレンジ精神旺盛です。また、夢に向かって努力しているので、見守っています。彼女は来たときから里子ということはわかっていて、自分から友達に里子だよ、と話をしていました。彼女の周りの友達もそれを理解してくれて、とてもいいおつき合いをしているようです。

そのお姉ちゃんの下の子は2歳から受託したのですが、とても個性的な子です。幼稚園の時に、ポケットの中にクワガタとかダンゴムシを入れてきて、それを知らずに洗濯をしてしまった時、「乾けば動くから」と言ったり、学校の面談では、先生に「本当に子どもらしくてかわいい」「おもしろい」と言われます。でも、それが彼のいいところでもあるんです。今年受験生ですが、全く危機感がありません。今は落ちても落ちなくても、良くても悪くても、自分が取った行動に対して最後の結末を体験させるという意味で、じっくり向き合い、将来何になりたいのか、自分はどうしたいのか、それを叶えるためにどうすればいいのかという、先を見据えた行動ができるように援助して

います。

その下は6歳の双子の女の子。2歳8カ月の時に、乳児院から来ました。双子といっても、全く性格の違う、共通点のない二人です。お姉ちゃんは話し方から行動、好み、全部女の子で甘え上手。妹は、元気で、食べることが大好き。少し潔癖ですけれども、その潔癖なところもきれい好きという個性だと思っています。私は基本的に交流が始まったら毎日通って、早く家に連れてきて、家でじっくり関わりたいと思っているので、予定のないときは続けて通いました。乳児院の玄関を一步出ると、二人とも固まって、歩かなくなるので、一人、二人と抱きかかえて、筋トレをするつもりで渋谷の街を散歩したのを覚えています。基本的に二人で仲よく遊んでいます。時には口げんかもあります。そうすると、お姉ちゃんが「もう、双子やめた」、妹は「双子はやめられないんだよ」と言って、「やめる」「やめない」で言い争いをしています。でもすぐに妹が、「さっきはごめんね。やっぱり双子続けようよ」と言って、また仲良く遊んでいます。

その下は、ちょうど1年前に11カ月で受託した女の子。この子は児童相談所からお話をいただいた時から、人見知り、場所見知りがすごいですよと言われていました。実際、交流中ずっと泣いていました。彼女は、泣くのが仕事だと思って、あんたが泣いていてもママはしゃべるよという想いで、常に話しかけて、声を覚えてもらおうと思い、くだらないことでも何でも話しました。今では、家族にしか見せない笑顔で笑ってくれて、すくすく育っています。その他に、犬が1匹と、中3の男の子が欲しいと言って買ってあげたカエルとハムスター、あと、水槽が2台とメダカ。それでみんな、個々に癒やされています。

うちはファミリーホームなので多人数の養育をしていて、学校のことや幼稚園のことなど、大人にとって大変なこともたくさんありますが、上の子は下の子の面倒を見てくれ、下の子は上の子を見習って頑張ってくれます。何より一番いいと思うのは、いつも誰かと一緒にいられる安心感だと思っています。また、今まで一時保護、短期を含めてたくさんのお子どもをお預かりしました。家に来た子どもたちは、理由はさまざまですが、とにかく不安を抱えて来ます。児童相談所の方が連れてきてくれて、玄関のところでぱっと見た子どもの顔というのは、本当に表情が硬くて、何か怖いものでも見ているかのようです。そんな子どもたちに安心してもらえるように、子どもたちのどんな行動や言動でも、私たちがぶれることなく、年齢、個性に合った接し方で接するように心がけています。うちは一時保護でお預かりする子どもも多く、入れかわりがあるので、里子の方から「どうして来たの?」「ずっといるの?」「〇〇ちゃんのお母さんは?」など質問されることがあります。真実告知は、そのときに子どもに話すようにしています。

「辛い」という漢字に1本、線を入れてあげると「幸せ」に変わります。つらい経験、つらい思いをした子どもたちに、家庭という線を入れてあげて、幸せになってもらえるように、私はいつでもマンパワーで、太陽のように温かく見守り育てて、自分自身もこれからも成長していきたいと思っています。

## 17 何気ない幸せ

### 【里父】

養育里親になったきっかけから、お話ししていきたいと思います。

実子がいなかったこともあって、ある時、妻が「週末里親」という制度があるみたいだけど、やってみないかと相談がありました。これがきっかけです。その制度は、土日や夏休みなどの長期のお休みの時に子供たちと一緒に過ごすというものでした。それならばできそうだということで、後日、施設を訪問し詳しいお話を聞きました。

施設でお話を聞いていく中で、いろいろな実情があり、週末里親だけではなく養育里親もあるので、そちらで登録してみてもいいかなというお話をいただきました。

当初は、週末里親のつもりでいましたが、帰宅後に妻と相談し、登録だけでもしてみようかということになりました。そしてあらためて児童相談所へ申請をしたという次第です。

その後、書類の提出や事前の研修などを行って無事登録となりました。

登録後の紹介については、早い時があれば、時間がかかる場合もあるとは聞いていましたが、1年以上たっても連絡はありませんでした。登録期間は2年なので、その後は更新手続きが必要です。正直その時は、更新前までに紹介がなければ、更新はやめようかという話を妻ともしていました。

そんなある日、児童相談所から女の子の紹介がありました。紹介の内容は書面のみの情報で、顔もわかりませんでした。話を進めることにしました。その後、実際に施設を訪問し少しずつ交流を始めることになりました。

初めの交流は、公園に行ったり、ファミレスでデザートを食べたりという感じで始まりました。だいぶ慣れてきたころ、自宅に行くということになりましたが、交流先の施設は、自宅から約2時間半かかるため、自宅へ来ても1時間程度でとんぼ返りということで、なかなか大変だったなと思います。

交流を初めて約半年が経過した頃、受託の話になりました。幼稚園の年長から交流が始まり、小学校入学前ということもあり、できれば入学時には受託できればということでしたが、結果的には、施設側で小学校に入学し、1か月後に我が家へやってきました。

転校時には、友達ができるか心配もしましたが、実際には友達もたくさんでき、けんかをいっぱいするなど違う心配ごとが増えました。

ご近所の方には、受託前後に里親制度についてお話をし、子供が増えることを伝えました。みな、「いいじゃない」「昔はよくそういうことがあった」と言ってくださいました。

今では、すっかりご近所さんとも仲良しです。

受託後もうすぐ3年を迎えますが、時々、娘から「私をどうやって探したの？」と聞かれることがあります。「インターネットで探したの？」と。

そんな時は、以前いたキリスト教関係の施設であったことから、「前は神様のおうち

にいたでしょ？」「神様がめぐり合わせてくれたんだよ」って話しています。娘は「ふーん、そうなんだ」って答えています。が、だんだんわかってくる年齢になってくるので、そういう時は、どう説明すればよいのか児童相談所の方々に相談をしています。

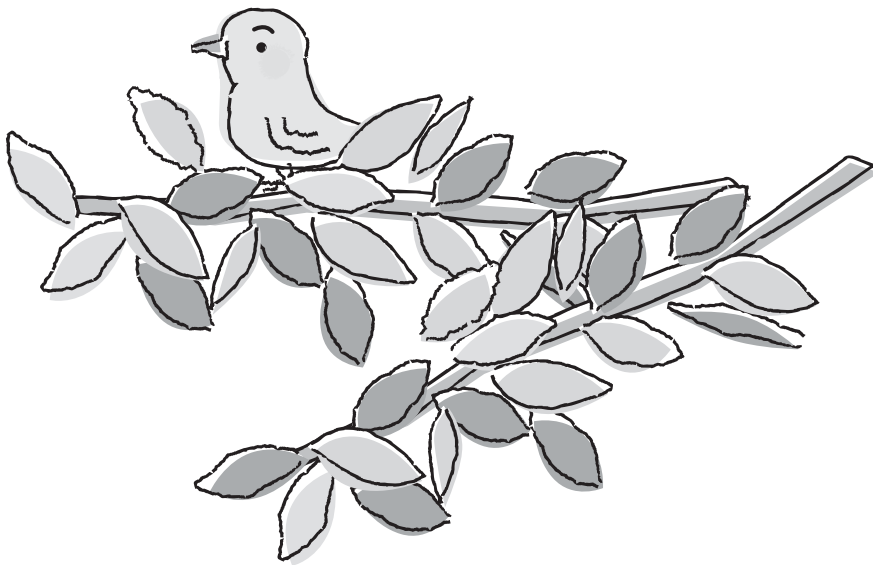
まだ、里親としての経験も浅い中、今回、体験発表の機会をいただいて感謝しています。

あらためて思い出しても、登録申請から受託に至るまで、たくさんの人たちが関わっていて、助けていただいていることを実感します。

受託後2年が経過し、毎日楽しく暮らしています。特に里子と里親というような感じではなく、普通に家族として生活しています。我が家にはねこが8匹いるのですが、ねこを含めて大家族でガヤガヤやっています。たまに家族でファミレスなどで外食した帰り道、妻が前にいて、となりに娘がいて話しながら自転車に乗っている姿を見ると「ああ、なんかいいなあ」と感じます。何気ないことかもしれませんが、子供が来て里親になったからこと味わうことができたのだと思います。

なんだかんだケンカすることもあります。それも含めてだんだん本物の家族になっていくのかなと思います。

本日は、貴重な機会をいただきありがとうございました。



## 18 新米里親奮闘中

### 【里父母】

現在、うちには小学校5年生の女の子、小学校1年生の男の子の、実の姉弟のお子さんが2人来ています。

私たち夫婦は子宝に恵まれないことがわかっていましたので、私は夫に養子か里子を迎えたいとずっと言ってきました。しかし、夫が首を縦に振らず、結婚から大体8年目ぐらいのときに子供を迎えることに乗り気になってきた様子でした。

結婚当初はにぎやかな家族に憧れがあって、自分が満たされたいとか、夢をかなえたいと思うような自己中心的なものが動機だったと思います。（里母）

結婚して妻から養子や里子を迎えたいと常々言われてきたのですけれども、なかなか賛同できませんでした。妻が気軽に話してきますので、そんな簡単なことじゃないんじゃないかなという思いと、他人の子供をずっと愛していく自信がなかったということが理由の一つです。高校時代の男友達から子供との生活の話聞き、そこで自分にとっても、子供がいてもおかしくないのかなと、2人で楽しい生活だけではなくて、2人の関係で子供たちを愛して、1人でも幸せな生活を送らせていきたいという思いになってきました。（里父）

2人を引き取って1年8カ月になります。姉弟仲も非常によく、元気に遊ぶ2人となら楽しい日々が送れるかななんて思って、学年が変わる3月末に措置になりました。そのときは、お姉ちゃんが4年生、下の弟が年長さんに上がる時でした。お世話になった施設の方々に御挨拶をして、荷物と私たちを乗せた車が出発したときに、いつもはすごく気丈なお姉ちゃんが大粒の涙をぼろぼろと流して泣いていたのです。その姿を見て「ああ、この子を幸せにしてあげないといけないな」と、すごく心にかたく決意をした瞬間がありました。

生活が始まるのですが、弟のほうはすごく甘え上手で、お姉ちゃんと4歳離れているので、人に手をかけてもらうことを当然の権利とっていたようでした。お姉ちゃんは弟に比べて本当に不器用だと思うのです。甘えたい時はっきりと甘えたいと言えなくて、全く違う言葉に置きかえて甘えてくるわけなのです。初めはすごく戸惑い、どうしていいかわからなかったのです。お姉ちゃんは甘えていいよという保護者ができてすごく喜んでいただいていたようなのですが、私は一度に2人を受け入れてしまったのでうまく対応ができなくて、そのストレスでお姉ちゃんは非常に怒りをためていたようでした。

姉弟で私の取り合いを毎日、1日に何度もするのですが、お姉ちゃんのほうはもう思い詰めてしまって、すごく自分の中にストレスをためてしまっていました。

弟のほうはといいますと、甘えるのは上手なのですが、やはり緊張感がありまして、多分1年ぐらいは夜中の11時ぐらいまで起きているのが普通で、1時、2時になることもよくありました。初めのほうは不眠と、疲れと、日々の生活が思ったようにいかないストレスと、イベントの準備とか、初めの2週間の生活の激変で発熱を起こしたり、あ

とは極度の頭痛を起こしたりして、本当に体調不良になってしまいました。すごく大変な時期だったと今、振り返って思います。母には毎日手伝いに来てもらっていたのですが、母が足首を骨折するということがあり、さあ困ったというふうになりました。いきなり母の介護が必要になってしまって、2人の子供の面倒を見ていくのは大変ということになり、児童相談所の方にお話をしたら、弟のほうに泣く泣く一時保護所に行ってもらおうということになりました。彼は1人では寝られない子なのにひどいことをしたなど、今でも申しわけないことをしたなど思っています。その間、約2カ月間お姉ちゃんは、これをチャンスと思って私をずっと独占して、夏休み中だったので、もう毎日、ただただべたべたというか、本当に至近距離で時間を過ごしていました。彼女にとっては本当に非常にいい時間だったのではないかと思います。夏休みも残り2週間を切ったころに、弟を迎えに行って再会の喜びと、私のほうは懺悔の涙で号泣して帰ってきました。

お姉ちゃんのほうは、運動会の次の日ぐらいからだんだん学校に行かなくなって、6月、7月はほとんど学校に行かない引きこもり生活になってしまいました。それにしても本当にどうしていいかわからなくて途方に暮れていたのです。10月半ば、彼女の中で変化が起こり始めました。毎日学校に行くことで、まず友達が増えました。授業にもついていけるようになって、楽しくなってきたようです。

弟はすごくかわいく甘えてくるときもありましたし、逆に大人を挑発してけんかを挑んでくるときがありました。落ち着くまでの半年というのは本当に大変でした。男の子のお母さんとは、まあ本当に強くさせられるものだと、つくづく感じました。

姉弟それぞれの仲間がいて、その仲間と公園で楽しく遊んで、その中で初めはもごもごして言えなくて、すごくストレスをためて帰ってきたのに、最近では自分の意見も言っていて、ちょっとした喧嘩もできるようになって、すごく成長したなど思っています。(里母)

彼らがうちに来たころは家を2人にジャックされたような感じで、家に帰るのがつらい時期もあったのですけれども、1年過ぎて今、楽しく毎日過ごしています。

お姉ちゃんと遊ぶこともあります。弟のほうは僕と妻を使い分けているというか、甘えるのは妻で、僕とは男同士ということもあって、いつも家にいると「ちょっと来て」みたいな感じで呼ばれて、遊び相手にさせられているという感じです。一緒に家族4人で過ごすということは休みのときぐらいしかないので、近所にスーパー銭湯がありまして、僕が休みのときは月に1回ぐらいは行って楽しい時間を過ごしています。(里父)

今後ですが信頼関係を結ぶことによって、心がとてもよくなってきていると思うのです。彼らの周りにも、同じ小学校でもいろいろな家庭環境のお子さんが実はいらっやいます。そういうお子さんのこともサポートしたりとか、励ましたりできるような子になるのではないかと思います。

また、思春期になったら難しい時期が来ると思うので、どうぞよろしくお願いします。以上で発表を終わります。ありがとうございました。(里母)

平成28年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	区市町村	担当児童相談所	参加人数				合計
				養育家庭・フットホーム	都区市町村及び関係職員	民生児童委員主任児童委員	一般・学生その他	
平成28年9月4日	文京シビックセンター4階 シルバーホール	文京区	児童相談センター	0	7	9	49	65
平成28年10月1日	国立市公民館	国立市	立川児童相談所	0	4	1	35	40
平成28年10月6日	奥多摩町子ども家庭支援センター きこりん	奥多摩町	立川児童相談所	4	4	3	24	35
平成28年10月8日	国分寺・Lホール	国分寺市	小平児童相談所	0	1	2	48	51
平成28年10月12日	世田谷文化生活情報センター・生活工房セミナールームA・B(キャロットタワー5階)	世田谷区	世田谷児童相談所	2	2	10	36	50
平成28年10月13日	生涯学習センタークリエイティブホール 5階ホール	八王子市	八王子児童相談所	5	29	4	42	80
平成28年10月16日	町田市生涯学習センター7階ホール	町田市	八王子児童相談所	2	4	5	75	86
平成28年10月20日	住吉会館ルピナス2階研修室	西東京市	小平児童相談所	2	1	2	11	16
平成28年10月21日	三鷹市産業プラザ 7階	三鷹市	杉並児童相談所	1	16	1	11	29
平成28年10月23日	中央区教育センター 5階視聴覚室ホール	中央区	児童相談センター	0	3	3	34	40
平成28年10月27日	日野市役所 505会議室	日野市	八王子児童相談所	1	30	7	34	72
平成28年10月29日	女性総合センター アイムホール	立川市	立川児童相談所	2	3	1	39	45
平成28年11月4日	新宿区立子ども総合センター3階研修室	新宿区	児童相談センター	1	15	32	44	92
平成28年11月5日	みなと保健所8階 大会議室	港区	児童相談センター	3	0	0	122	125
平成28年11月5日	阿佐谷地域区民センター 3階	杉並区	杉並児童相談所	0	3	0	45	48
平成28年11月7日	昭島市役所602・603会議室	昭島市	立川児童相談所	3	10	2	18	33
平成28年11月8日	豊島区役所1階センタースクエア	豊島区	児童相談センター	1	3	41	99	144
平成28年11月9日	青梅市役所 議会棟大会議室	青梅市	立川児童相談所	4	6	5	18	33
平成28年11月10日	東久留米市役所1階市民プラザ	東久留米市	小平児童相談所	1	2	1	10	14
平成28年11月10日	健康プラザかつしか小ホール	葛飾区	足立児童相談所	1	2	0	20	23
平成28年11月10日	あきる野市役所 503・504・505会議室	あきる野市	立川児童相談所	1	6	28	32	67
平成28年11月10日	東大和市市民会館 ハミングホール	東大和市	小平児童相談所	3	28	8	44	83
平成28年11月10日	武蔵野プレイス 4階	武蔵野市	杉並児童相談所	0	5	3	9	17
平成28年11月10日	墨田区役所131会議室	墨田区	江東児童相談所	2	15	0	8	25
平成28年11月10日	たづくり	調布市	多摩児童相談所	3	4	4	42	53
平成28年11月11日	たまっこ	多摩市	多摩児童相談所	0	2	0	33	35
平成28年11月11日	台東一丁目区民館	台東区	児童相談センター	0	3	16	47	66
平成28年11月12日	石神井区民交流センター大会議室	練馬区	児童相談センター	4	10	9	23	46
平成28年11月12日	目黒区役所総合庁舎	目黒区	品川児童相談所	3	0	4	20	27
平成28年11月14日	ケアコミュニティ美竹の丘	渋谷区	児童相談センター	1	2	0	28	31
平成28年11月14日	瑞穂町子ども家庭支援センター ひばり	瑞穂町	立川児童相談所	1	5	7	12	25
平成28年11月16日	中野区役所 7階	中野区	杉並児童相談所	2	4	0	82	88
平成28年11月17日	地域振興プラザ	稲城市	多摩児童相談所	0	9	3	18	30
平成28年11月18日	板橋区立グリーンホール	板橋区	北児童相談所	0	3	0	33	36
平成28年11月18日	たっち	府中市	多摩児童相談所	1	1	0	40	42
平成28年11月18日	サンパルネ コンベンションホール	東村山市	小平児童相談所	0	1	1	12	14
平成28年11月19日	アクロス荒川	荒川区	北児童相談所	4	2	0	20	26
平成28年11月19日	小金井市役所 第2庁舎801会議室	小金井市	小平児童相談所	0	2	0	23	25
平成28年11月19日	品川区荏原文化センター	品川区	品川児童相談所	1	4	6	13	24
平成28年11月19日	福生市福祉センター 2階集会室	福生市	立川児童相談所	4	4	1	25	34
平成28年11月20日	羽村市コミュニティセンター ホール	羽村市	立川児童相談所	0	3	8	57	68
平成28年11月23日	児童センター(ころぼっくる)	清瀬市	小平児童相談所	0	0	1	26	27
平成28年11月26日	東部市民センター	小平市	小平児童相談所	1	2	2	27	32
平成28年11月26日	赤羽文化センター	北区	北児童相談所	1	2	0	35	38
平成28年11月26日	市民総合センター3階 集会室	武蔵村山市	小平児童相談所	0	0	1	27	28
平成28年11月26日	狛江市防災センター	狛江市	世田谷児童相談所	2	2	9	35	48
平成28年11月26日	大田区役所	大田区	品川児童相談所	1	1	25	26	53
平成28年11月27日	足立子ども支援センター5階研修室3	足立区	足立児童相談所	2	3	0	30	35
平成28年11月27日	江東区文化センター	江東区	江東児童相談所	6	4	0	36	46
平成28年11月30日	日の出町役場3階 第1・2会議室	日の出町	立川児童相談所	0	4	1	20	25
平成28年12月2日	千代田区立児童・家庭支援センター 神田さくら館7階研修室	千代田区	児童相談センター	1	7	0	24	32
平成28年12月9日	タワーホール船堀 5階小ホール	江戸川区	江東児童相談所	0	29	44	77	150
合 計				77	312	310	1798	2497



平成28年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	9/4	10/1	10/6	10/8	10/12	10/13	10/16	10/20	10/21	10/23	10/27	10/29	11/4	11/5
	文京区	国立市	奥多摩町	国分寺市	世田谷区	八王子市	町田市	西東京市	三鷹市	中央区	日野市	立川市	新宿区	港区
①性別														
男性	12	4	3	2	7	19	3	3	3	6	24	3	14	1
女性	25	10	13	20	29	26	35	9	17	10	20	24	52	19
不明・無回答	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0
②年齢														
～20代	4	4	0	10	16	10	20	3	2	2	5	11	6	3
30代	4	0	3	1	3	7	3	4	4	0	2	2	7	6
40代	8	8	5	4	3	8	3	3	6	7	18	7	13	6
50代	7	0	4	5	5	9	10	2	6	5	16	4	12	4
60代	10	1	3	1	5	7	1	1	3	0	1	0	22	0
70代～	4	1	1	0	4	3	1	0	0	2	3	3	6	0
不明・無回答	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1
③所属														
一般	20	5	2	7	5	7	7	8	2	6	6	8	6	12
民生児童委員	9	1	3	1	10	3	2	1	0	2	2	1	22	0
主任児童委員	0	0	0	1	0	1	3	1	1	1	5	0	10	0
養育家庭	0	0	4	0	2	5	2	1	1	0	1	2	1	3
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
都職員	2	2	2	0	0	3	1	0	1	0	2	0	3	0
区市町村職員	4	1	1	1	1	23	2	0	11	1	25	1	7	0
施設・関係団体職員	1	1	1	0	1	3	1	1	4	2	3	2	5	0
学生	1	4	0	11	17	0	20	0	0	2	0	11	2	2
その他	0	0	2	1	0	1	0	0	0	1	1	0	7	3
不明・無回答	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	0
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)														
はい	35	13	16	20	32	36	34	11	20	15	36	24	58	0
いいえ	2	1	0	2	4	10	4	1	1	0	9	1	4	0
不明・無回答	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	4	20
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)														
区報・市報・ホームページ	20	2	4	4	17	7	10	4	9	10	18	7	19	7
ポスター	1	2	4	0	4	6	2	2	8	0	4	4	7	0
児相・子ども家庭支援センター	14	4	5	5	11	15	9	3	7	5	12	5	5	5
児童福祉施設	3	1	2	1	3	5	3	2	5	1	6	3	6	1
インターネット	5	2	0	2	1	3	5	5	3	4	4	3	4	4
テレビ番組	2	3	0	4	1	5	6	4	0	5	3	3	5	5
テレビCM	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新聞・雑誌	2	1	0	2	1	2	1	2	1	2	2	3	2	2
知人・友人	2	2	3	5	1	2	5	1	2	1	1	1	1	1
図書	7	0	0	2	1	1	1	2	2	0	1	5	0	0
公開講座	4	3	0	8	7	3	13	2	0	9	2	8	9	9
その他	2	1	3	0	13	7	3	0	3	6	3	9	6	6
不明・無回答	0	0	2	0	0	3	0	1	1	1	0	1	2	0
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)														
区報・市報	18	2	6	4	10	9	4	2	2	5	19	2	12	5
都報	1	0	1	0	1	3	3	0	1	1	2	0	1	1
ポスター	7	0	0	0	0	3	0	1	4	0	3	2	3	0
体験発表会チラシ	11	5	5	10	11	17	12	1	10	4	18	12	4	4
インターネット・HP	4	3	0	2	2	2	1	6	3	4	1	4	3	4
知人に勧められて	4	2	2	4	5	2	4	2	2	4	1	2	1	4
過去に参加	3	1	4	5	3	6	5	0	4	1	8	5	12	1
行政機関への問合せ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1
その他	4	3	5	4	6	11	18	2	4	12	7	8	29	12
不明・無回答	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)														
養育家庭制度に興味・関心があったから	24	8	8	11	16	23	24	10	13	15	15	12	30	15
子育てに関わる話が聞けると思ったから	5	1	4	4	11	11	5	3	8	3	12	6	20	3
仕事や学問などの参考にするため	15	8	3	15	23	19	22	3	6	16	24	15	18	16
養育家庭になりたいと思ったから	3	3	1	0	1	1	6	6	2	1	3	1	2	1
その他	4	0	3	0	3	6	2	1	1	0	6	5	10	1
不明・無回答	0	0	1	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
とても良かった	25	11	16	18	24	32	30	7	15	10	28	25	54	14
良かった	12	3	0	3	8	11	6	3	4	4	12	2	6	3
普通	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	3	0	6	2
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	0	0	0	1	3	3	1	1	2	0	2	0	0	0
感想数	20	7	10	13	11	11	20	9	10	4	18	17	38	13
アンケート回答	37	14	16	22	36	46	38	13	21	16	45	27	66	20
参加者総数	65	40	35	51	50	80	86	16	29	40	72	45	92	125

平成28年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/5	11/7	11/8	11/9	11/10	11/10	11/10	11/10	11/10	11/10	11/10	11/11	11/11	11/12
	杉並区	昭島市	豊島区	青梅市	東久留米市	葛飾区	あきる野市	東大和市	武蔵野市	墨田区	調布市	多摩市	台東区	練馬区
①性別														
男性	7	4	9	7	1	2	16	13	5	6	7	2	7	12
女性	36	10	59	13	7	6	23	36	11	19	19	20	28	33
不明・無回答	1	2	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	6	1
②年齢														
～20代	24	1	13	1	1	0	5	6	2	0	4	1	3	3
30代	3	2	7	0	0	2	1	5	3	2	2	5	3	6
40代	10	2	2	7	2	4	3	13	4	10	3	11	3	17
50代	4	6	10	5	2	1	9	14	5	6	9	3	3	15
60代	2	4	25	4	1	1	19	11	1	4	4	1	16	3
70代～	0	1	11	2	1	0	5	1	1	3	2	0	13	2
不明・無回答	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1	0	0
③所属														
一般	18	1	9	3	3	4	5	2	8	7	8	11	1	18
民生児童委員	0	0	36	5	1	0	23	6	2	0	2	0	16	2
主任児童委員	0	2	5	0	0	0	5	2	1	0	2	0	0	7
養育家庭	0	3	1	4	1	1	1	2	0	2	3	0	0	4
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
都職員	0	5	1	2	0	0	2	0	1	1	0	0	0	2
区市町村職員	2	2	0	3	0	1	0	11	0	10	1	0	0	6
施設・関係団体職員	1	3	2	1	2	1	4	17	4	4	3	2	3	2
学生	23	0	12	1	1	0	1	0	0	0	2	0	1	2
その他	0	0	2	0	0	0	2	6	0	0	0	6	7	2
不明・無回答	0	0	0	1	0	1	0	3	0	1	5	3	7	1
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)														
はい	35	15	57	18	7	8	41	45	16	23	24	21	23	36
いいえ	7	0	11	1	1	0	1	4	0	2	2	1	18	7
不明・無回答	2	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)														
区報・市報・ホームページ	10	6	32	9	0	1	18	19	6	5	9	7	15	14
ポスター	1	1	7	2	1	0	5	5	3	2	1	4	5	1
児相・子ども家庭支援センター	7	8	27	8	2	0	21	17	5	11	13	7	15	11
児童福祉施設	3	3	8	6	2	4	10	14	6	3	3	3	9	4
インターネット	6	0	3	1	0	1	0	1	1	0	0	2	1	5
テレビ番組	3	2	4	2	2	2	3	8	1	1	2	5	6	10
テレビCM	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新聞・雑誌	1	4	7	3	0	1	6	7	0	3	0	1	5	1
知人・友人	4	0	3	6	1	1	5	5	1	3	1	3	1	0
図書	2	0	0	1	0	0	1	4	0	0	0	0	3	2
公開講座	11	0	6	1	0	0	2	5	0	1	2	3	5	6
その他	11	3	11	1	0	1	6	3	3	3	5	9	8	6
不明・無回答	0	1	2	3	1	0	1	3	0	0	0	0	0	11
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)														
区報・市報	2	5	7	9	1	3	13	19	4	5	8	8	7	16
都報	1	1	1	0	0	0	3	1	2	1	2	1	1	2
ポスター	2	0	4	0	0	1	2	4	5	0	1	2	2	1
体験発表会チラシ	20	6	29	7	4	3	17	16	1	6	5	2	15	11
インターネット・HP	5	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	5
知人に勧められて	2	1	11	1	2	0	4	7	1	4	2	0	1	1
過去に参加	2	6	23	3	0	2	15	2	2	4	4	1	16	5
行政機関への問合せ	0	0	1	1	0	0	1	2	0	1	1	0	2	1
その他	17	3	16	2	2	1	11	11	4	2	5	9	14	11
不明・無回答	0	1	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)														
養育家庭制度に興味・関心があったから	22	8	35	10	3	7	27	19	8	6	15	11	0	19
子育てに関わる話が聞けると思ったから	8	7	22	6	3	2	22	16	4	9	7	11	16	23
仕事や学問などの参考にするため	24	8	18	8	2	2	16	31	8	11	10	12	18	28
養育家庭になりたいと思っていたから	4	0	3	0	1	1	2	2	2	1	1	3	19	4
その他	1	2	11	2	1	1	6	2	1	1	3	4	4	3
不明・無回答	0	1	0	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	5
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
とても良かった	31	14	33	14	7	7	33	28	13	17	15	19	25	13
良かった	10	1	29	5	0	0	8	14	3	5	7	1	10	21
普通	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	2	1	6	1	1	1	2	7	0	3	3	2	5	10
感想数	18	13	41	9	7	5	31	12	7	12	14	18	36	17
アンケート回答	44	16	68	20	8	8	43	50	16	25	26	22	41	46
参加者総数	48	33	144	33	14	23	67	83	17	25	53	35	66	46

平成28年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/12	11/14	11/14	11/16	11/17	11/18	11/18	11/18	11/19	11/19	11/19	11/19	11/20	11/23	
	目黒区	渋谷区	瑞穂町	中野区	稲城市	板橋区	府中市	東村山市	荒川区	小金井市	品川区	福生市	羽村市	清瀬市	
①性別	男性	1	4	4	12	4	1	0	1	5	4	3	5	13	1
	女性	18	22	10	25	13	34	14	4	14	17	15	13	30	3
	不明・無回答	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	1	0	1	0
②年齢	～20代	6	15	0	19	3	4	6	1	6	9	5	6	3	2
	30代	2	2	2	7	2	3	2	1	2	1	1	2	4	0
	40代	6	5	2	8	6	15	5	1	4	6	6	3	19	0
	50代	5	4	2	2	2	4	2	1	3	3	2	5	6	1
	60代	0	0	8	1	3	5	0	1	2	1	2	1	8	1
	70代～	0	0	0	0	0	3	1	0	3	1	3	1	2	0
	不明・無回答	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	0
③所属	一般	6	8	1	13	2	16	7	2	9	11	3	2	30	1
	民生児童委員	0	0	7	0	2	0	0	1	0	0	5	1	7	1
	主任児童委員	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	養育家庭	2	1	1	2	0	0	0	0	4	0	1	4	0	0
	フレンドホーム	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	都職員	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0
	区市町村職員	0	1	0	0	9	2	0	0	0	0	3	1	0	0
	施設・関係団体職員	0	1	3	4	0	1	1	1	1	2	1	2	0	0
	学生	6	14	1	18	0	1	2	1	5	8	4	7	0	2
	その他	0	1	0	0	0	9	0	0	0	0	1	0	1	0
	不明・無回答	0	0	0	0	4	6	5	0	0	0	0	0	2	0
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)															
はい	17	22	15	26	13	24	16	5	20	19	16	15	36	4	
いいえ	2	4	0	11	5	11	0	0	0	2	2	2	8	0	
不明・無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)															
区報・市報・ホームページ	7	0	7	2	9	8	5	1	2	5	5	5	15	1	
ポスター	0	0	1	1	2	0	1	2	2	1	0	3	2	0	
児相・子ども家庭支援センター	4	5	7	6	7	9	2	1	4	2	6	5	10	2	
児童福祉施設	0	0	5	4	5	0	4	2	1	3	3	4	1	0	
インターネット	1	4	0	6	2	3	2	1	4	3	3	1	1	0	
テレビ番組	1	5	1	2	2	6	0	0	2	1	0	4	4	1	
テレビCM	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
新聞・雑誌	1	2	1	1	0	1	1	0	0	0	2	2	2	1	
知人・友人	2	1	1	5	0	1	3	0	1	3	1	2	4	0	
図書	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	
公開講座	2	9	1	9	1	1	2	0	5	6	4	3	0	0	
その他	2	6	2	4	1	5	3	1	7	5	2	1	8	2	
不明・無回答	2	0	0	10	0	12	0	0	2	2	3	2	6	0	
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)															
区報・市報	2	0	9	7	8	7	2	1	1	3	5	2	10	1	
都報	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	
ポスター	0	0	1	1	2	1	1	0	0	2	0	3	4	1	
体験発表会チラシ	6	4	5	11	6	7	8	2	9	7	8	6	17	2	
インターネット・HP	3	4	0	6	3	2	4	1	3	3	3	0	1	0	
知人に勧められて	4	4	0	4	0	3	2	1	1	4	1	5	4	0	
過去に参加	3	1	3	4	6	6	4	0	2	1	2	4	10	0	
行政機関への問合せ	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	
その他	3	12	4	8	2	14	4	1	7	7	4	2	10	1	
不明・無回答	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0	
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)															
養育家庭制度に興味・関心があったから	11	15	4	15	9	15	9	3	10	12	8	5	21	3	
子育てに関わる話が聞けると思ったから	6	3	7	9	7	14	3	1	4	5	8	7	26	1	
仕事や学問などの参考にするため	12	16	8	16	12	7	6	2	6	10	11	9	4	2	
養育家庭になりたいと思ってから	1	1	0	4	2	2	3	1	2	4	1	0	2	1	
その他	0	0	1	5	0	4	2	0	2	3	2	4	7	1	
不明・無回答	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	1	1	0	
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。															
とても良かった	17	16	12	16	10	26	10	5	16	20	9	17	30	3	
良かった	2	8	2	13	7	7	3	0	1	1	7	0	13	1	
普通	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
不明・無回答	0	2	1	8	1	2	2	0	3	0	3	1	1	0	
感想数	11	11	4	12	12	23	13	3	9	13	11	9	13	1	
アンケート回答	19	26	15	37	18	35	16	5	20	21	19	18	44	4	
参加者総数	27	31	25	88	30	36	42	14	26	25	24	34	68	27	

平成28年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/26	11/26	11/26	11/26	11/26	11/27	11/27	11/30	12/2	12/9	総計	
	小平市	北区	武蔵村山市	狛江市	大田区	足立区	江東区	日の出町	千代田区	江戸川区		
①性別	男性	8	6	2	8	11	6	8	3	7	23	342
	女性	16	32	7	28	34	9	24	7	17	87	1,122
	不明・無回答	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3	32
②年齢	～20代	11	17	2	15	5	4	7	0	3	7	316
	30代	1	0	2	3	3	4	7	3	10	15	166
	40代	2	8	2	2	10	2	11	2	4	20	339
	50代	6	7	1	5	6	4	5	1	4	30	293
	60代	4	5	2	5	12	0	3	4	3	30	252
	70代～	0	1	0	3	9	0	0	0	0	8	105
	不明・無回答	1	0	0	3	1	1	0	0	0	3	25
③所属	一般	6	15	4	6	12	7	12	5	2	25	404
	民生児童委員	1	0	1	9	22	0	0	1	0	40	248
	主任児童委員	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	62
	養育家庭	0	1	0	2	1	2	5	0	0	0	70
	フレンドホーム	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	7
	都職員	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	41
	区市町村職員	1	1	0	1	1	0	3	1	4	28	170
	施設・関係団体職員	1	1	0	1	0	3	1	0	2	1	101
	学生	12	16	2	17	5	3	7	0	1	4	249
	その他	2	3	2	0	2	0	3	0	3	10	78
	不明・無回答	2	1	0	0	0	0	1	0	10	1	62
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)												
はい	24	30	7	32	37	14	31	9			91	1,242
いいえ	1	8	0	4	8	1	1	1			21	186
不明・無回答	0	0	2	0	1	0	1	0			1	44
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)												
区報・市報・ホームページ	7	8	1	16	19	2	12	4	5	46	481	
ポスター	2	0	0	4	4	0	2	3	3	5	120	
児相・子ども家庭支援センター	4	6	0	11	14	1	10	3	6	30	412	
児童福祉施設	3	2	0	3	2	3	1	1	0	8	175	
インターネット	4	0	1	1	4	2	5	0	2	5	121	
テレビ番組	3	0	0	0	6	2	0	2	2	21	162	
テレビCM	2	0	0	0	1	0	1	1	0	2	21	
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
新聞・雑誌	5	1	0	1	3	0	4	0	2	8	100	
知人・友人	3	5	3	1	4	2	1	0	1	2	108	
図書	0	1	0	1	0	0	2	0	1	1	46	
公開講座	10	13	2	8	7	3	1	1	0	12	219	
その他	4	1	1	9	7	2	7	0	1	18	231	
不明・無回答	1	9	2	0	8	2	0	2	1	1	98	
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)												
区報・市報	4	7	1	10	6	0	6	3	1	31	334	
都報	2	1	2	1	0	1	1	1	0	4	49	
ポスター	1	0	2	0	2	0	8	1	0	1	78	
体験発表会チラシ	9	11	2	10	10	7	3	5	7	21	449	
インターネット・HP	2	0	3	2	6	3	5	0	1	12	124	
知人に勧められて	2	10	2	5	3	1	1	0	3	6	142	
過去に参加	4	2	0	4	9	2	2	2	0	15	229	
行政機関への問合せ	2	0	0	0	5	0	0	0	0	2	27	
その他	6	14	2	12	13	5	6	2	1	43	416	
不明・無回答	1	0	1	0	5	1	0	0	2	1	34	
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)												
養育家庭制度に興味・関心があったから	13	23	5	16	25	8	27	5	2	59	737	
子育てに関わる話が聞けると思ったから	1	11	0	11	13	5	4	2	7	38	445	
仕事や学問などの参考にするため	14	16	5	21	12	5	15	5	4	42	659	
養育家庭になりたいと思っていたから	1	2	1	1	1	2	4	0	8	4	122	
その他	1	2	1	3	4	5	4	2	1	14	152	
不明・無回答	7	0	1	0	2	1	0	0	0	2	35	
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。												
とても良かった	20	27	8	25	32	6	25	9	10	56	1,003	
良かった	4	9	1	8	13	9	3	1	4	46	354	
普通	0	0	0	1	0	0	0	0	10	1	33	
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
不明・無回答	1	2	0	2	1	0	5	0	0	10	102	
感想数	25	22	7	20	24	11	15	3	6	38	757	
アンケート回答	25	38	9	36	46	15	33	10	24	113	1,496	
参加者総数	32	38	28	48	53	35	46	25	32	150	2,497	

**養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのでき  
ない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生  
活し、養育していただく里親制度です。**

**【養育家庭(ほっとファミリー)を、詳しく知りたい。】**

**★ 申し込み資格は？**

- 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満の御夫婦。  
※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。  
配偶者がいない場合は、子供の養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、  
養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。
- 居室が 2 室 10 畳以上ある。

**★ どのような子供を預かるの？**

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、お  
おむね 18 歳までの子供です。

**★ 預かる期間は？**

- 原則として 1 か月以上です。
- 2 年を超える場合、2 年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させ  
ていただきます。

**★ 養育に係る費用は？**

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の  
額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

**★ 養育に必要な支援は？**

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。
- ほっとファミリー同士が集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

**【養育家庭制度に関するお問合せ先】**

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>

# MEMO

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

